

令和 6 年 度

下 川 町 教 育 の 概 要

下 川 町 教 育 委 員 会

下 川 町 民 憲 章

わたくしたちは、さく北の雄大な自然の中に生きる下川町民です。未来に希望をもち、農・林・鉱の資源を活用して、よりよい下川をつくることに努めましょう。

1. 心も、からだもすこやかに、あたたかい家庭をつくりましょう。
1. よい環境をつくり、青少年のつよく正しく育つまちにしましょう。
1. 自然を愛し、美しいまちづくりに努めましょう。
1. きまりを守り、みんな仲よく助け合い、明るいまちをつくりましょう。
1. 町の歴史を大切にし、文化の高い歴史をきずきましょう。

(昭和41年10月1日制定)



町花 (エゾリンドウ)

昭和52年12月23日制定



町木 (トドマツ)

昭和52年12月23日制定

下 川 町 教 育 是

1. 北方生活に適応する、健康で明朗な町民
2. 正義を愛し、敬虔で、豊かな情操をもつ町民
3. 勤労を尊び、科学的に生活を高める町民
4. 知性に富み、北方生活文化の向上を図る町民
5. 責任を重んじ、協調心強く、郷土愛に燃える町民

目 次

1	令和6年度教育行政執行方針	1
2	下川町教育委員会事務局の機構と職員配置図	9
3	第2期下川町総合教育大綱（下川町教育推進計画）	
	（1）全体構造図	11
	（2）計画の体系図	12
4	学 校 教 育 下川町学校教育のあらまし	
	（1）下川小学校	
	①学校経営	13
	②校務運営組織	15
	（2）下川中学校	
	①学校経営	16
	②校務運営組織	19
	（3）教育関係委員等の状況	
	①下川町教育委員会	20
	②下川町教育支援委員会	20
	③下川町立学校医・学校歯科医・学校薬剤師	20
	④下川町学校運営協議会	21
	⑤下川町いじめ問題対策連絡協議会	21
5	社 会 教 育	
	（1）令和6年度社会教育事業計画及び公民館運営事業計画	
	Ⅰ生涯学習	22
	Ⅱ生涯スポーツ	24
	Ⅲ芸術文化	25
	（2）令和6年度下川町公民館運営方針	26
	（3）社会教育関係各種委員の状況	
	①下川町社会教育委員及び下川町公民館運営審議会委員	27
	②下川町スポーツ推進委員	27
	③下川町文化財保護審議会委員	27
	④下川町視聴覚ライブラリー委員	27
	⑤下川町町民会館児童室運営委員及び放課後子どもプラン運営委員	27
	⑥下川町青少年育成推進協議会役員	28

(4) 令和6年度社会教育関係団体の状況

①各種団体連合会等	29
②その他社会教育関係団体	32

(5) 下川町の文化財 33

(6) 下川町社会教育関係表彰状況

①旧表彰規則による表彰者	35
②下川町文化賞	35
③下川町特別町民栄誉賞	35
④下川町町民栄誉賞	35
⑤下川町レジェンドスポーツ賞	35
⑥下川町特別スポーツ功労賞	35
⑦下川町スポーツ功労賞	36
⑧下川町特別スポーツ栄誉賞	36
⑨下川町スポーツ栄誉賞	37
⑩下川町スポーツ貢献賞	37
⑪下川町文化奨励賞	37
⑫下川町スポーツ奨励賞	38

1 令和6年度 教育行政執行方針

令和5年下川町議会定例会3月定例会議の開会にあたり、教育行政執行方針を申し上げ、議会並びに町民の皆様のご理解とご協力をお願いしたいと存じます。

今日、急激な人口減少や少子高齢化の進行、情報技術やグローバル化の進展などにより、私たちの価値観やワークスタイルが大きく変わる中、これまでの知識や経験だけでは、最適な解を見いだすことが難しい時代になっております。こうした変化の激しい社会の中で、私たちが、さまざまな困難を乗り越え、豊かな人生を送っていくためには、幾つになっても多様な他者と協働しながら、持続可能な社会の創り手として学び続ける必要があります、そのためには、必要な資質・能力の育成や環境等を整えることが求められています。

教育委員会としては、「子どもたちの笑顔と未来世代の幸せを育むまち」を基本に、下川町地域共育ビジョンとともに、第2期下川町総合教育大綱を実現していくため、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育(E S D)と、続ける幸せだけでなく、変わる・新しい幸せを生む教育を推進し、教育行政の責務を果たしてまいります。

特に、次代を担う下川町の子どもたちが、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながらさまざまな社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓くことができる質の高い教育を進めてまいります。

そのためには、下川町が大きな家のように、子どもたちを真ん中に地域、学校、家庭が繋がり、互いに連携・協働しながら育んでいくというビジョンを共有し、達成できるよう、教育委員会が主体となって各種の施策を推進していきます。

そこで、教育委員会として令和6年度に重点的に取り組む施策について、3点申し述べます。

一点目は、「義務教育9年間を見通した質の高い教育の実現」についてです。

質の高い学校教育を推進していくためには、小・中学校間だけでなく教職員間の情報・行動連携と、教職員一人ひとりが個性・能力を十分に発揮できる環境整備、さらには学校と家庭や地域が連携・協働して9年間見通した学校づくりをしていくことが重要であります。

これを実現していくために、令和6年度において、これまでの小中連携教育をレベルアップさせるイメージで、小・中学校段階の教員が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す「小中一貫教育」を、「施設分離型の小中一貫校」として令和7年度に運用開始ができるよう準備を進めてまいります。

具体的には、教育委員会規則を改正すること、令和5年度に作成した9年間を見通

した「総合的な学習の時間」の指導計画を実践すること、小・中学校で相互に教職員の乗り入れ授業を促進すること、学校行事や児童・生徒会行事等における合同開催の可能性を検討することなど、出来るところから実践してまいります。

次に、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）と連携し、小・中学校の教育活動の実態及び課題の共通認識を深め、地域活動に繋げることで、地域・学校・家庭が連携した場づくりを進め、協働活動を活発にしていまいります。

具体的には、地域に開かれた学校づくりの一環として、クラブ活動、委員会活動、学校行事、授業、環境整備等に関し、多様な支援スタッフとなる「地域学校協働活動推進委員」や「地域ボランティア」等の活用を実践してまいります。

次に、道徳教育には、児童生徒に自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として、他者と共に、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことが求められており、「特別の教科 道徳」を要として学校の教育活動全体を通して取り組み、発達の段階を考慮した指導方法の工夫改善を図っていくことが重要です。

具体的には、児童生徒の実態に応じた道徳教育の充実に生かしていけるよう、道徳推進教師が中心となって先進校の取組等の情報提供を行うとともに、相手の気持ちや考えを思いやり、自分と異なる個性を受け入れ、助け合うことができる心豊かな児童生徒を育成することを教育計画に位置付け、実践し、その成果等を参観日において「特別の教科 道徳」の授業を公開したり、学校だより等で情報を発信したりしてまいります。

次に、特別支援教育につきましては、児童生徒や保護者の多様化する教育的ニーズに応じた支援を行うことが大切であります。

具体的には、特別支援教育コーディネーターや特別支援教育相談員による学習面や生活面に配慮が必要な幼児、児童生徒の実態把握と、必要に応じて外部の専門家による指導助言を受けたり個別の教育支援計画を作成し活用したりするとともに、小中学校に特別支援教育支援員を配置し、特別な支援を必要とする児童生徒の学校生活を支援してまいります。

加えて、特別支援教育連携協議会による研修会や子育て講演会などを通して、関係職員だけでなくこども園の職員や町民の皆様も参加できる特別支援教育関連の今日的課題に対する研修会等の実施に努めてまいります。

次に、生徒指導では、主に特別活動を通して、教師と児童生徒との信頼関係及び児童生徒同士の好ましい人間関係を築き、ひいては個性の違いを認め、尊重する関係を基本として、学校全体で支持的風土を醸成していきます。

具体的には、いじめ防止の取組について、全教職員が「どの児童生徒にも、どの学校にも起こり得る」、「いじめ見逃しゼロ」、という意識をもち、どんな理由があっても、いじめは絶対に許されることではないことを理解させるとともに、学級担任

が中心となつて行う定期的ないじめ調査や教育相談だけでなく、学校長のリーダーシップの下、いじめ防止等対策委員会を中心として組織的かつ速やかに対応するよう、各学校等への指導を徹底してまいります。

二点目は、「誰一人取り残されない多様な学びの機会の保障」についてです。

年齢に関係なく多様な人々と協働しながら、生涯にわたって楽しく学び続けることができるよう、自分が得意とする分野や可能性を見だし、挑戦できる環境を整えていくことが重要です。

これを実現していくために、小中学校教育において、児童生徒一人ひとりの個性を生かし、可能性を伸ばす指導を工夫するとともに、学習の環境整備に努めることによって、学びを止めず、学ぶ意欲を高めていく必要があります。

具体的には、GIGAスクール構想を日常の教育活動の中で着実に推進していくことです。令和5年度までにICTに係る教職員の日常的な業務・学習支援の充実、配置した一人一台タブレットを授業で活用していくことができる学習環境が整備されているところですが、今後は、タブレットの高性能化による計画的な更新を進めてまいります。

また、セキュリティ強化による遠隔・オンラインによる授業や課題研究を行うことで、学校以外での児童生徒の学びを保障してまいります。

さらに、整備しているICTにより、全教職員が業務改善を通じた仕事の効率化などを図り、学校における働き方改革を進め、自らの授業のレベルを引き上げることができる時間確保につなげていくこととします。

次に、ICT支援員と連携した情報モラル教育が重要になってきます。

具体的には、児童生徒だけでなく、保護者に対しても情報機器の活用に当たり、情報発信が与える他者への影響を考慮すること、犯罪被害の危険の回避など情報を正しく安全に使うこと、情報機器の使用による健康への影響を理解することなど、情報社会で適正な活動が行えるよう指導と研修を進めてまいります。

次に、下川町の良さを活かした体験活動や生涯スポーツ等の充実についてですが、まず、体験活動においては、児童生徒が発達段階に応じて、ふるさと下川の自然環境や歴史・伝統・地域の人に触れ、地域のよさを学ぶことで、自分が得意とする分野や可能性を見だし、挑戦できる環境を整えていくことが重要です。

これを実現していくために、地域を基盤としたキャリア教育に力を入れ、一人ひとりの興味・関心を見つける機会をつくり、多様な大人との対話を通じた取り組みや、地域をフィールドとした実践を小学校から高校まで一貫して実施し、自律した社会人に向けて必要となる資質・能力の基盤を育むとともに、SDGsの考え方を身に付ける取組を継続して推進してまいります。

具体的には、小学校において、令和4年度に改訂した社会科副読本「しもかわ」を活用しつつ、身近な自然を通して、学校だけでなく地域の大人達から学ぶ機会を

通した教育活動を進めてまいります。小中学校において、地域の商工業者、医療、福祉施設等との連携協力により、各職場の職員と児童生徒との交流や職場体験活動の実施を進めてまいります。

また、下川町認定こども園「こどものもり」から小・中学校、高等学校において、森林とのふれあいや林業体験などを実施し、系統的な森林環境教育を継続してまいります。

次に、キャリア教育のベースの一つで、「対話的な学び」を育んでいくことが重要になります。

これを実現していくために、児童生徒がお互いの考えや気持ちを認め合い、自分の思いや考えを気兼ねなく伝えることができる心理的安全性を高めることができる集団づくりを進め、子ども同士の協働、教職員や地域の商工業者等との対話を手がかりに考えることを通じ、自己の考えを広めていく機会を増やしてまいります。

具体的には、先に述べた9年間を見通した「総合的な学習の時間」や地域学校協働活動など、発達段階に応じた実践を通して推進してまいります。

次に、生涯スポーツの振興については、町民一人ひとりが、年齢に関係なく健康づくりやスポーツを通じて、楽しく心と体を鍛えることができる機会や場を設けていくことが重要です。

これを実現していくために、健康の保持増進やレクリエーションを目的として、いつでも、誰でも、どこでも、気軽にできる生涯スポーツを推進していきます。

具体的には、年齢や体力に応じ、安心して取り組んでいただけるスポーツ教室や体験会等を実施してまいります。

次に、競技スポーツにおいては、スポーツ協会加盟団体やスポーツ少年団、中学校・高校の部活動、公区活動等に対し、活動への支援を行うことにより、参加者や保護者の負担軽減や競技力向上を図り、青少年の健全育成とともに町民全体の健康増進に努めてまいります。

さらに、ノルディックスキー競技においては、下川町から巣立った選手が国内外の大会で活躍しており、それが町民に感動と勇気と可能性をもたらしていることから、今後におきましても、幼少の裾野を広げる活動に力を入れるとともに、専門指導員を中心に、幼小を中心とした体験会と幼小中高一貫指導を継続し、世界を目指す選手の育成強化と学校への支援を推進してまいります。

次に、学校教育全般を通じて行われる健康教育は、「生きる力」の土台となる「たくましく生きるための健康や体力」の獲得、更には生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培うことが求められています。

これを実現していくために、学校における体育・健康に関する指導を、児童生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを推進してまいります。

具体的には、健やかな体力づくりとして、児童生徒の体力向上に向けて、全国体力・運動能力、運動習慣等調査など該当学年の客観的なデータを基に、全学年で保健指導及び保健管理の充実に努めるとともに、自らが心身の健康を大切にすることに気付き、運動することの楽しさを実感し、望ましい生活習慣を身に付けさせることができる体育科や保健体育科の授業改善と学校の特色を生かした体力づくりを計画的に行ってまいります。

また、学校給食を通して、食に関する正しい知識と、地産地消や望ましい食習慣の定着を図る食育の充実等につながる教育を、栄養教諭と連携して小中学校で実践してまいります。

さらに、学校安全につきましては、交通事故や災害等の発生時に児童生徒の安全を確保するために、教職員だけでなく、児童生徒自身も迅速・的確に行動することが不可欠です。そのために、交通安全教室、防犯教室、防災教室により、児童生徒の意識啓発に努めるとともに、保護者や関係機関、団体との連携を図りながら、児童生徒自身に、危険予測能力や危機回避能力を身に付けさせてまいります。

次に、友達関係を巡る問題や学業の不振、生活リズムの乱れによる気力の低下などにより、不登校の児童生徒が増加傾向にあり、全校体制でどのように支援していくか検討していくことが重要です。

これを実現していくために、学校に登校するという結果のみを目標とせず、児童生徒が安心して学ぶことができる場づくりや絆づくりなどを推進していくことが大切です。

具体的には、不登校の児童生徒の状態やニーズに応じて学習意欲の維持、向上等を図るため、学校内外において、ICTを活用した計画的な学習活動を行えるよう、支援の充実に取り組むとともに、関係機関と連携を図りながら、社会的自立を目指し、個々の児童生徒に応じた組織的・計画的なきめ細やかな支援を継続して行ってまいります。

三点目は、「地域と歩む持続可能な教育の実現」についてです。

近年、地方の過疎化や人口減少、高齢化等により地域社会における支え合いやつながりが弱まり、学校の小規模化とともに、子どもたちを取り巻く環境が急激に変化しており、学校だけでは解決が難しい課題も生じています。これらの課題を解決するために、学校と共に地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていける地域力を強化していくことが重要です。

これを実現していくために、学校が地域の教育力を、地域が学校の力を活かしていくことができる学校運営協議会（コミュニティ・スクール）が核となり、互いに児童生徒の実態及び課題の共通認識を深めるとともに、地域学校協働活動の推進により、学校の教育活動と地域の活動を繋げることで、地域の魅力や課題に触れる機会が生まれ、多様な体験活動を創出してまいります。

具体的には、小中学校の各校長が作成し、学校運営協議会で承認をいただいた令和 6 年度の学校経営方針と、「義務教育 9 年間でめざす姿」の中に学校運営協議会が地域の願いとしてまとめた「下川を愛する児童生徒像」の項目に、令和 6 年度の重点を位置付け、教育委員会、学校と学校運営協議会の 3 者が、小中学校の経営状況を共有し、協議を行いながら、一体となって児童生徒に「生きる力」を育成してまいります。

また、地域学校協働活動推進員を派遣し、小学校のクラブ活動や中学校の部活動のほか、図書室の充実に向けた取組に加え、授業や学校行事等の教育活動と連携した地域学校協働活動を推進してまいります。

また、小中学校の教職員の専門性を生かし、相互に授業の乗り入れを実施してまいります。加えて、地域共育ミーティング・フォーラム等で、地域共育ビジョンの進捗状況などに関わる学校・家庭・地域の対話を行ったり、関係機関等のアドバイスを受けたりして確認してまいります。

さらに、中学校の部活動の地域移行に関しては、令和 5 年度末に発足した「部活動改革推進委員会」で、「下川町の子どもたちは、学校を含めた下川町全体で育てる」という考えの下、地域の実情に応じスポーツ・文化芸術環境の最適化を図り、体験格差を解消し、生徒の望ましい成長を保障できるよう、検討を重ね、できるところから地域移行を進めてまいります。

子どもを含めた町民の居場所づくりについては、昨年度から、公民館ロビーにて「スタディ&ワークスペース」を設置しており、手元を明るくするライトやコンセント、無料 W i - F i を提供することで、予約なしに誰でも気軽に利用できる場を設けております。これまでは、期間を限定し実験的に設置してきましたが、昨年度の利用状況や要望を踏まえ、今年度は常設していきたいと考えています。

また、公民館のロビーや学校等の一室を、中高生を含めた町民の居場所として開放し、利活用できないか検討してまいります。

次に、人生 100 年時代と言われ、みんなが同じ時期に同じことをする時代は終わり、世界はマルチステージの人生に変わりつつあります。今後は、より多様で豊かな生き方・暮らし方をしていくために、町民一人ひとりが乳幼児期から高齢期までの生涯各期にわたる学びを通じて、充実した潤いのある生活にしていくことが重要です。

これを実現していくために、個の学びだけでなく、他者と学び合い認め合うことで相互の繋がりを形成するため、学校教育の学びだけでなく社会教育の学びの場や機会を設け、気軽に楽しむことができる環境整備に努めたり、生きがいを作り出す事業を展開したりしてまいります。

具体的には、豊かな心を育む芸術・文化の振興について、町民会館図書室と学校図書室との連携などを含めた読書活動の推進を図ってまいります。

町民会館図書室においては、日常の暮らしに役立ち、課題解決につながる図書資料の充実を図るとともに、読書を通じた主体的な生涯学習や読書習慣の確立を支援し、親しまれる読書環境づくりを進めてまいります。

また、乳幼児への読み聞かせを行うブックスタート事業、世界に一つだけのパーソナル知育絵本のプレゼントや読書イベントなどにより、子どもが本に親しむきっかけづくりや親子のふれあいを促進してまいります。

さらに、新たに学芸員あるいは相当の知識をもった方を地域おこし協力隊として確保し、ふるさと交流館や札天山収蔵館の来館者対応と文化財の資料整理を進めてまいります。

また、ふるさと交流館に、「語り部」を導入し、ふるさと交流館に一定期間常駐していただくことで、来館者に対し下川町の歴史や文化を語り継いでいただく事業を進めてまいります。「語り部」については、下川町の歴史や文化等に詳しい方に登録していただき、地域学「しもかわ学会」が作成したブックレットなどを活用していただくことを想定しています。

次に、優れた芸術文化に接する機会を充実し、創造性を高め、心豊かで活力ある地域づくりにつながる芸術文化の振興が重要です。

これを実現していくために、町民による自主的・創造的な芸術・文化活動を支援するとともに、芸術文化に接する機会の提供や文化協会加盟の文化サークルと連携した町民参加型の事業を実施してまいります。

具体的には、地域の歴史や伝統文化を後世に伝えるため、積極的な伝承活動が行われております無形文化財である「上名寄郷土芸能」を永く後世に伝えるために支援するほか、町民が触れる機会を設けてまいります。

さらに、令和4年度までの「ふれあいコンサート及び町民芸術文化鑑賞事業」を統合し「ふれあいイベント」として令和5年度より実施しており、引き続き様々なジャンルの芸術文化にふれる機会を提供してまいります。

次に、子どもの社会性や自立心、基本的生活習慣の育成などに課題を抱える保護者が増加傾向で、家庭教育には重要な役割があります。

これを実現していくために、子どもの健やかな成長に必要な知識を学び、家庭の教育力向上に寄与するためのセミナーや体験講座などの学習機会を提供し、地域全体で親子を支える環境づくりや絆を深める取組を実施してまいります。

具体的には、児童室において、親子が安全で安心して触れ合える場を提供するとともに、放課後、児童の安全と居場所を確保してまいります。

さらに、青少年教育においては、人間形成の基礎がつけられる最も大切な時期であり、地域・家庭・学校が連携を深め、学校外で良好な教育環境を構築し、実践していく必要があります。

そこで、継続的・計画的に実施している小学生対象のキッズスクールや中高生の

居場所づくり事業等による各種体験活動や自学自習等の充実を図ります。

さらに、高齢者教育においては、各種交流会や高齢者学級などの見直しを図りながら気軽に交流できる環境を提供するとともに、高齢者がもつ知識、技能や経験を活かし、健康で生きがいのある充実した生活を送られるよう努めてまいります。

次に、近年、上川北学区の中学校卒業生の減少などにより、高等学校の生徒確保が非常に厳しい状況であることから、引き続き、下川商業高等学校において、商業のスペシャリストの育成を目指した魅力ある学校づくりを支援していくことが重要であります。

これを実現していくために、学校が地域と共にある特色ある教育活動や生徒の個性を大切に、能力や適性に応じた学習を進めていけるよう、町として、直接的・間接的に支援できる環境を整備していく必要があります。

具体的には、総合的な探究の時間の課題研究において、学校と地域との連携を支援する地域学校協働コーディネーターを派遣し、個別の課題研究を決め、計画を立て実現できるよう支援するとともに、下川商業高等学校の学校運営協議会（コミュニティ・スクール）との連携・協働を確保し、地域と共にある魅力ある学校づくりの充実に繋げ、存続維持・発展できるよう各種の振興策を進めてまいります。

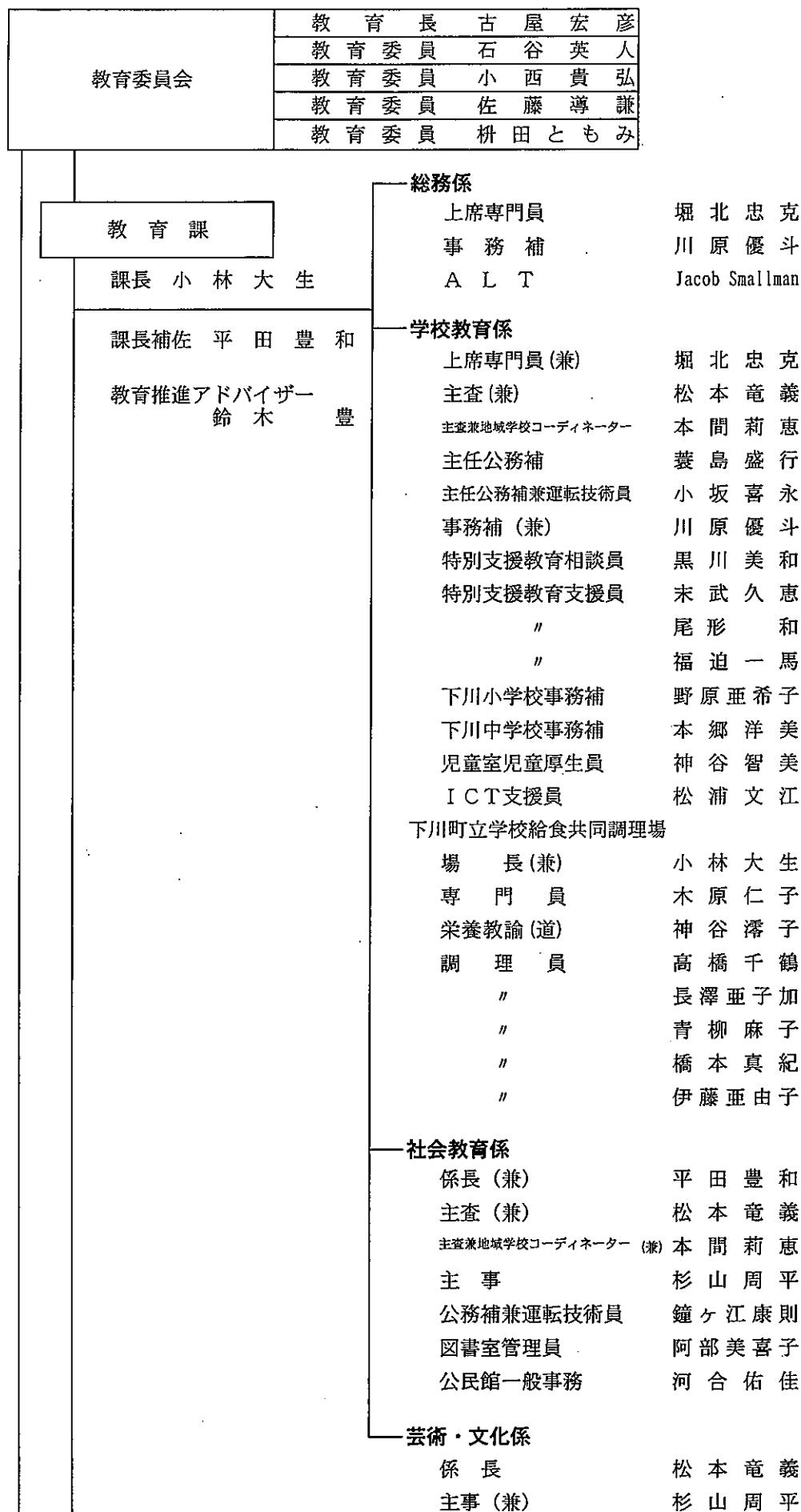
以上、教育行政執行方針を申し上げましたが、先行き不透明で変化の激しい時代を乗り越えていくため、生涯を通して学び、考え、様々な困難に対応できる教育が求められております。

本年度におきましても、下川町の教育行政に直接責任をもつ教育委員会として、町長部局と緊密に連携しながら、この重責を強く自覚し、持続可能な社会の創り手となる下川町の子どもたちを、町全体で育てていくというビジョンを達成できるよう、重点施策を中心に推進していくことによって、本町の教育行政の充実・発展に取り組んでまいります。

今後とも、議員各位並びに町民の皆様のご理解とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます、下川町教育行政執行方針とさせていただきます。

教育行政執行方針とさせていただきます。

2 下川町教育委員会事務局の機構と職員配置図



生涯スポーツ係

主幹 伊 藤 克 彦

係長(兼)

伊 藤 克 彦

上席専門員(兼)

堀 北 忠 克

主 事

馬 淵 源

主事(兼)

杉 山 周 平

公 民 館

(兼)館 長 古 屋 宏 彦

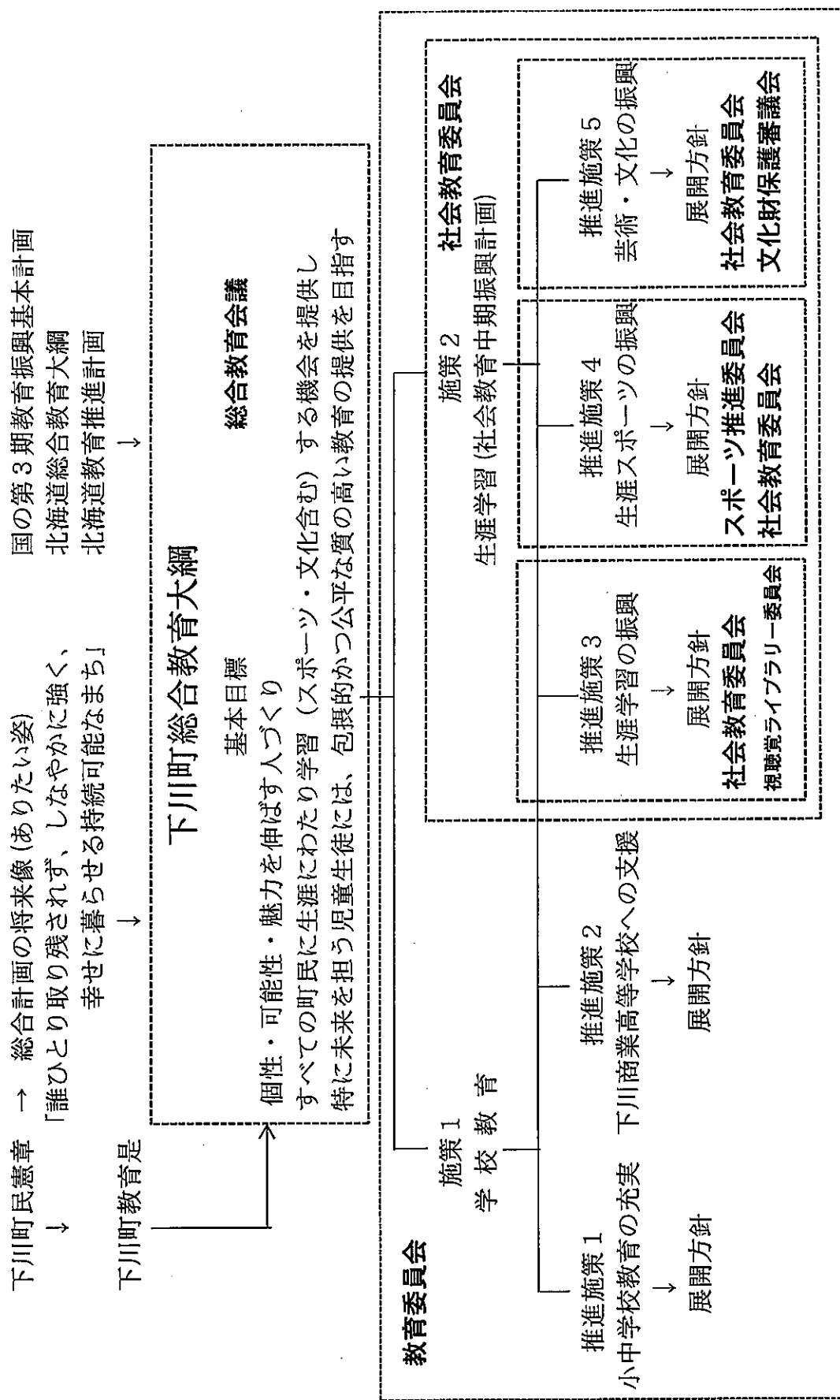
(兼)副館長 小 林 大 生

(兼)主 事 教育課職員(学校公務補、道費職員、会計年度任用職員を除く)

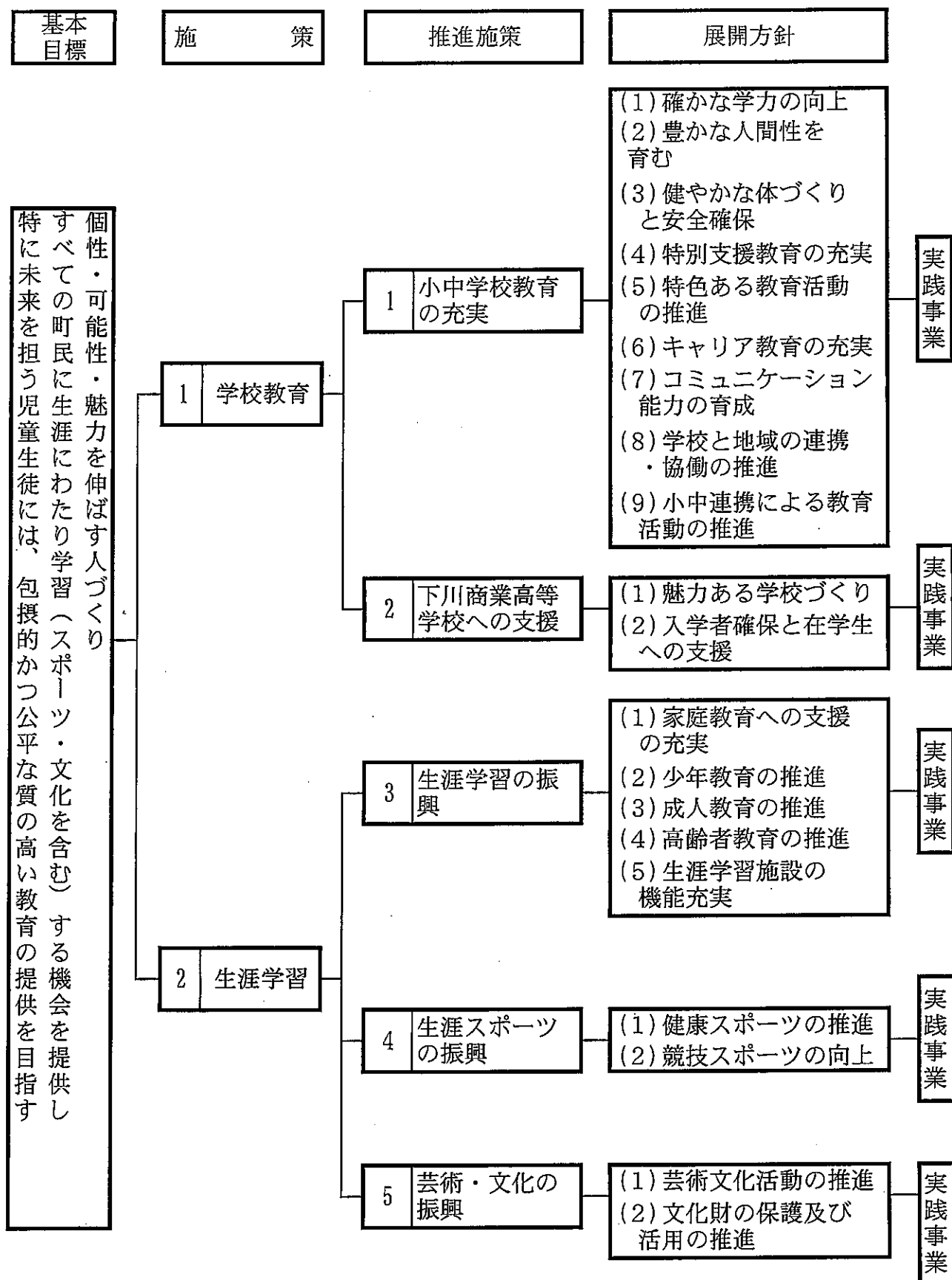
3 第2期下川町総合教育大綱（下川町教育推進計画）

(1) 全体構造図

全体構造図（平成31年現在）



(2) 計画の体系図 (平成31年現在)



4 学校教育 下川町学校教育のあらまし

(1) 下川小学校 (下川町西町40番地)

① 学校経営

(R6.5.1現在)

校 長	高 館 正 司	児童数	学 年	1	2	3	4	5	6	特支	合計
教 頭	林 早 苗		男	7	8	7	6	9	10	6	53
学級数	10 (うち、特支学級4)		女	8	12	9	10	9	8	5	61
			計	15	20	16	16	18	18	11	114
校 訓 ・明るい子ども (S48年制定) ・考える子ども ・がんばる子ども			学 校 及 び 児 童 の 実 態								
学 校 の 教 育 目 標			本校は、市街地の西側に位置し、開校117年を迎えた歴史と伝統のある学校である。昭和47年に校舎建設後、平成6年度に大規模改修、平成25年度に内装木質化及び地域熱供給施設システム導入を行っている。普通学級6学級、特別支援学級4学級の編成で、クラス20名前後の教育環境にある小規模校である。児童は、理想的な学級人数構成と恵まれた学習環境や自然環境の中で笑顔に溢れ明るく生き生き生活しており、挨拶運動の先頭に立つ児童会役員やジャンプに果敢に挑戦する児童、森林の中で静かに考える児童など、笑顔の学習活動が学校生活に意欲と喜びを与えている。学力に関しては、学年差や個人差が大きく、更なる基礎学力の確実な定着及び、諸事情により遅れて登校する児童が数名おり、個に応じた支援が必要である。								
「今を確かに生き、未来にはばたく子どもを育てる」											
め ざ す 学 校 像											
○学びがいのある学校【子ども】											
○働きがいのある学校【教員】											
○頼りがいのある学校【保護者】											
○親しみのある学校【地域】											
年 度 の 重 点 目 標											
どの子にも『笑顔』と『自信』そして「居場所」を！ ～個別最適な学習と協働的な学習を通したウェルビーイングの向上～											
学 校 経 営 の 基 本 方 針											
「 共 に 汗 を 」											
＜経営の基本＞											
①「知・徳・体」のバランスのとれた人間性豊かな生きる力の育成を目指した本校教育目標の具現化に努める。											
②「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」の3つの資質能力の育成に向けた「目指す子ども像」を保護者、地域と共有し、成長を共に喜び合える関係づくりに努める。											
③教職員の実践的指導力やチーム貢献力の向上を図り、重点課題を共有しながら学校力の向上に努める。											
④小中の連携を強化し、次年度に分離型小中一貫校になるための準備を行う。											
＜目指す学校像＞											
【子どもにとって】 「学びがいのある学校」											
【教師にとって】 「働きがいのある学校」											
【保護者にとって】 「頼りがいのある学校」											
【地域にとって】 「親しみのある学校」											

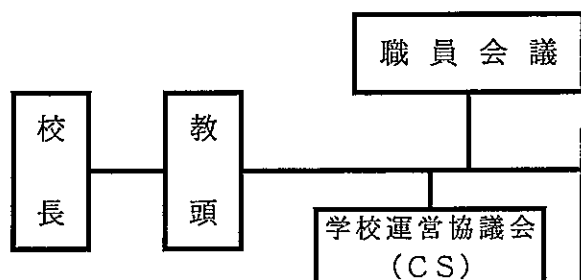
指 導 の 重 点	
各教科	◎ 確かな学力の向上 ア 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の3つの資質・能力の育成に向けた探究的な学習過程の構想 イ 「習得」「活用」「探求」の学びを意識した単元構成 ウ 文章理解と文章表現の能力の習得を目指す全校的な授業改善 エ 一人一人の学びを支える集団づくり（学習のつまずきの発見とフォローアップ） オ 家庭と連携した学習習慣の確立に向けた具体策の実施（家庭学習計画の推進）
道徳	◎ 「特別の教科道徳を要とした」豊かな人間性を育成 ア 考え、議論する問題解決的な道徳授業の工夫 （重点：A：【善悪の判断、自律、自由と責任】 B：【親切、思いやり】） イ いじめの根絶に向けた「人権」教育の推進 ウ 自分や友達のよさを実感できる場の設定と充実 エ 別業作成による教科横断的な道徳教育の推進
特別支援教育	◎ 一人一人のニーズに応じた発達を促す特別支援教育の充実 ア 教育的ニーズに適切に対応するための担任間及び特別支援教育相談員や支援員との協働的な校内支援体制の確立 イ 指導内容・指導方法の工夫と自立と社会参加を目指した指導の実施 ウ 特別支援学級と通常学級との交流及び共同学習の推進と連携の強化 エ 特別支援学校、名寄市立大学、各種機関との教育相談や医療機関との連携 オ 児童一人一人のよさや進歩の状況を的確に把握する評価の工夫
外国語活動	◎ 新学習指導要領に沿った外国語・外国語活動の充実 ア 外国語活動と外国語科の段階的・系統的な内容理解と指導法の共有（校内研修等） イ 指導体制の工夫や教材の活用・蓄積（ALTとの連携） ウ 中学校英語への接続を意識した具体的な連携の推進（乗り入れ授業等）
学習の時間	◎ 特色ある教育活動の推進と、自ら学び、自ら考える「総合的な学習の時間」の充実 ア 系統性と教科横断的な内容及び育てたい資質・能力を明確にした指導計画の作成 イ ESD（持続可能な開発のための教育）を意識した下川学的学習 ウ 地域と触れあい、地域に学ぶ、体験的な活動を大切にしたいふさと教育の充実 エ 地域学校協働コーディネーターによる地域資源や専門的な人材の活用、学習の交流等の充実 オ 給食の地域食材などを通して地域とのつながりや命の大切さに気づかせる
特別活動	◎ 自主的、実践的な態度と社会性を育む特別活動の充実 ア 社会性を育む指導の工夫と多様な集団活動の充実（異学年交流及び縦割り班活動等） イ 子どもの社会性や集団への所属感を高める活動の充実（学級活動、学校行事等） ウ 自治的能力、自発的活動の工夫と充実（児童会活動、中学校との連携等） エ 地域の外部講師を活用したクラブ活動の充実
生徒指導	◎ 一人一人に寄り添う生徒指導の充実 ア 子どもへの共感的理解、教育相談の充実と校内指導体制の確立（個や学級の実態の客観的把握に基づく対応） イ いじめ・不登校等、生徒指導上の問題に対する組織的で適切な対応 ウ 基本的な生活習慣の確立や規範意識の高揚 エ 生徒指導事例研修等、生徒指導にかかわる研修の充実
キャリア教育	◎ 自己実現を図る資質や能力を育むキャリア教育の推進 ア 子どものキャリア発達段階に応じた指導の充実とキャリアパスポートの活用 イ 自らの役割や責任を果たし、集団の中で自己を生かす指導の工夫 ウ ほっとを活用し、子どものよさや可能性を伸ばす自己評価の工夫
コミュニケーション能力	◎ 言語活動の充実とコミュニケーション能力の育成 ア 外国語活動と外国語科の段階的・系統式な内容理解と指導法の共有（校内研修等） ア 豊かな語彙を獲得するための指導の工夫と環境づくり イ 事実等を正確に理解し、理論的・的確な表現での交流 ウ お互いの考えを伝え合い、自分の考えや集団の考えを発展させる場面設定
体育・健康	◎ 生命を尊び、健やかな体を育む健康・安全教育の充実 ア 自分の体力や技能を把握して進んで運動に親しむための環境の整備 イ 体力テスト等による体力、運動能力の実態把握と結果の活用 ウ 「生活安全」「交通安全」「災害安全」の3つの安全教育にかかわる保護者や地域と連携した体制整備 エ 「食に関する指導」の全体計画に基づく望ましい食習慣の形成に向けた食育の推進 オ 心身の健康の増進を支える登校しやすい環境の整備
研修活動	◎ 指導力の向上を図る研修活動の充実 ア ICT活用（プログラミング教育を含む）におけるICT支援員や地域学校協働コーディネーターの支援協力と授業への活用促進 イ 道徳教育、外国語教育、ESD(SDGs)等の実践的研修や授業交流の推進 ウ 各分掌（学習指導・生徒指導・健康安全指導等）と連携した校内研修（ミニ研修等）の推進 エ 他機関との連携、上教研の活動及び各種研修会への積極的な参加

② 校務運営組織

校長 高 正 司
 教頭 林 早 苗
 教務主任 尾 崎 智 行
 保健体育部長 勝 本 真 帆
 生徒指導部長 久 保 田 基 文

事務職員 三 好 千 恵
 公務補 小 坂 喜 永

○校務分掌及び担当



分 掌	氏 名
教 務 部	○尾崎 智行 平井 知佳・宇恵 慎也・渡辺 大 石神 美咲・水口 愛弓・伊藤 元太
生徒指導部	○久保田 基文 上西 悠大朗・板倉 栄作
保健体育部	○勝本 真帆 最上 光輝・小倉 三桜雪 佐々木 浩美・神谷 滯子
事務管理部	○三好 千恵・小坂 喜永・野原 亜希子

特 別 委 員 会 他
○教育課程編成委員会 ○防災対策委員会 ○生徒指導委員会 ○研究推進委員会
<関係機関と連携する特別委員会> ○いじめ防止・不登校等対策委員会 ○教育支援委員会 ○学校保健委員会
< 推 進 教 師 > 特別支援教育コーディネーター ～宇恵 慎也 校内研究推進担当教師 ～石神 美咲 道徳教育推進教師 ～平井 知佳 外国語・外国語活動推進教師 ～小倉 三桜雪 ICT活用推進教師 ～伊藤 元太 ～最上 光輝 初任者指導教師 ～尾崎 智行 地域連携推進教師 ～尾崎 智行 (CS委員) 互助会レク担当者 ～上西 悠大朗 ～小倉 三桜雪

1 年 1 組	勝 本 真 帆
2 年 1 組	水 口 愛 弓
3 年 1 組	石 神 美 咲
4 年 1 組	久 保 田 基 文
5 年 1 組	上 西 悠 太 朗
6 年 1 組	伊 藤 元 太
あすなろ (知的)	小 倉 三 桜 雪
たんぽぽ (言語)	最 上 光 輝
たいよう (肢体)	(兼) 宇 恵 慎 也
りんどう① (情緒)	板 倉 栄 作
りんどう② (情緒)	平 井 知 佳
特別支援フリー	宇 恵 慎 也
時間講師 (特別支援)	大 石 陽 介
教 務 主 任	尾 崎 智 行
T T : 指導工夫改善	渡 辺 大
養 護 教 諭	佐 々 木 浩 美
栄 養 教 諭	神 谷 滯 子
事 務 職 員	三 好 千 恵
特別支援教育相談員	黒 川 美 和
特別支援学級支援員	尾 形 和
特別支援学級支援員	末 武 久 恵
A L T	Jacob Smallman
地域学校協働コーディネーター	本 間 莉 恵
地域学校協働活動推進員	田 中 由 紀 子
公 務 補	小 坂 喜 永
事 務 補 助	野 原 亜 希 子

渉 外	P T A (事務局)	事務局長 : 教頭 事務局次長 : 教務主任 会計 : 事務職員 顧問 : 校長
	町 P 連	副会長 : 校長 代議員 : 教頭 代議員 : 事務職員
	町教研 (へき複連)	会長 (兼へき複連委員長) : 校長 事務局長 (兼へき複連事務局長) : 教頭

(2) 下川中学校

(下川町南町417番地)

① 学校経営

(R6.5.1現在)

校 長	越 湖 憲 治	生徒数	学 年	1	2	3	特支	合計
教 頭	久須美 晶 子		男	3	11	12	6	32
学級数	6 (うち、特支学級3)		女	8	10	8	0	26
			計	11	21	20	6	58
校 訓 創 造 敬 愛 (S 5 3 年制定)			学校及び生徒の実態					
学 校 の 教 育 目 標			本校は、商店街を中心とする町の南側に位置し、開校77周年を迎える歴史と伝統のある学校であり、卒業生も7,752名(令和5年度末現在)に上っている。昭和53年に町内4中学校統合を機に現在地に校舎建設後、平成12年度に大規模改修を行い、広く明るい学習空間と生活スペースの中で、教育活動が進められている。生徒は、基本的な生活習慣が身につくよう、明朗快活で活動的、何事にも興味関心が強く、日常の生活行動も安定している。一方、幼少時から人間関係の固定化やそれに伴う考え方・視野の狭さを感じられる側面もある。指導の課題としては、①基礎的・基本的学習内容の定着②家庭学習の習慣化③自己理解と思いやり④将来を見通し主体的に努力する姿勢があげられる。					
◆基本目標 豊かな知性を持ち たくましい意志で やり抜く生徒								
め ざ す 生 徒 像								
【知】 正しく判断し、創意工夫しながら課題を解決する生徒								
【情】 他者の立場や考え方を尊重し、進んで協働できる心豊かな生徒								
【意】 自分の言動に責任を持ち、粘り強く取り組む生徒								
【体】 自他の生命を尊び、自らを鍛える心身ともに健康な生徒								
学 校 経 営 の 基 本 方 針								
① 学校経営目標の明確化と学校評価の活用によるその具現化								
② 調和のとれたトップダウンとボトムアップによる組織力強化								
③ 地域の教育力を活用し、協働と体験を重視した特色ある学校づくり								
学 校 経 営 の 重 点								
(1) 地域とともにある学校づくりの推進								
○家庭・地域と連携した下川を愛する生徒の育成								
○小中一貫教育の導入を見据えた教育課程編成の推進								
○学校運営協議会を軸にした「義務教育9年間をめざす姿」の具現化								
(2) 教育目標具現化のためのカリキュラム・マネジメント								
○確かな力を育む、主体的・対話的で深い学びによる学習指導								
○エビデンスに基づいた学力向上策による基礎・基本の確実な定着								
○主体的に学ぶ意欲と学びに向かう力・人間性を育てる教育活動の充実								
(3) 生徒個々の心に寄り添う生徒指導								
○教職員と生徒との信頼関係、生徒相互の望ましい人間関係を育てる学年経営								
○自他を尊重する心の涵養による学校における心理的安全性の構築								
(4) ESDとキャリア教育を基本とした教育活動の推進								
○将来の生き方を見据えた学習・生活習慣の形成								
○教科等横断的な視点による、育成すべき資質・能力の確実な定着								
(5) 全教職員の経営参画による組織マネジメント								
○全教職員による組織的・協働的な業務の遂行と改善の推進								
○キャリアステージに応じて求められる資質・能力を高める研修の充実								
年 度 の 重 点 目 標								
自らの成長を実感できる生徒の育成								
「仲間と共に高め合う」「主体的に学び続ける」「自分の言葉で未来を語る」								
重 点 目 標 具 現 化 の 方 策								
(1) 教育目標具現化のための教育課程の編成								
① 社会に開かれた教育課程の実現								
② 全教科・全領域で取り組むESD(持続可能な開発のための教育)								
③ 全ての教育活動で取り組む「義務教育9年間をめざす姿」の具現化								
④ 小中一貫教育の導入を見据えた編成の推進								
(2) 確かな力を育む学習指導								
① 学ぶ喜びを実感し、基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る指導の充実								
② 協働的な学びの充実とICTの効果的な活用による授業改善								
③ 家庭との連携による主体的に学び続ける態度の育成								
④ 学びに向かう力・人間性の育成のための個に応じた学習指導の充実								

重点目標具現化の方策

- (3) 基本的生活習慣の確立と規範意識を育てる生徒指導
 - ① 全職員による組織的な指導体制の確立と状況に応じた迅速な対応
 - ② 共感的人間関係の醸成による心理的安全性の構築
 - ③ いじめ・不登校の未然防止と早期発見・早期対応への組織的な体制の強化
 - ④ 保護者との迅速で丁寧な連携による信頼関係の構築
 - ⑤ 規則正しい生活習慣確立のための組織的な対応と家庭との連携の強化
- (4) 道徳性を養い道徳的実践力を高める道徳教育
 - ① 特別の教科道徳における自己内対話と議論を重視した道徳的価値の学習の充実
 - ② 教育活動のあらゆる場面における道徳的実践力を高める指導の充実
 - ③ 生徒の実態を踏まえた指導の充実と各教科等との関連を図った指導の工夫
- (5) 多様な他者と協働して社会性や望ましい人間関係を構築する特別活動
 - ① 自主的・協働的な活動の充実による望ましい人間関係の構築
 - ② 社会性を涵養し、個と集団が共に高め合うことのできる行事の推進
 - ③ 望ましい勤労観や職業観を育てるキャリア教育の充実
 - ④ 3年間を見通した主体的な進路選択への指導と支援の充実
- (6) 地域の特性や今日的課題を踏まえた総合的な学習の時間
 - ① 生徒の実態を踏まえ、育成を目指す資質・能力を明確にした探求的学びの充実
 - ② 地域の教育力を活用した効果的な学習過程の工夫
 - ③ 体験的な活動と教科横断的な視点の学習による特色ある教育課程の実現
 - ④ 幼小から高へつながる森林環境教育の充実
 - ⑤ 未来志向で自分自身を見つめ直すキャリア教育の充実
 - ⑥ 地域と地域の未来を考えさせるふるさと教育の充実
- (7) 生命を尊び、たくましく健康な心身を育てる健康・安全教育
 - ① 全ての教育活動を通じた、健康で安全な生活を送るための実践力（危機予測能力、危機回避能力）の育成
 - ② 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」を活用した健康的な生活指導の充実
 - ③ 地域人材の活用等による食育の充実
 - ④ 安全意識の高揚と実践力の育成のための一日防災教育の実施
 - ⑤ 今日的課題（薬物乱用防止、情報の取捨選択とSNS、性教育、防災・安全、防犯等）に対応した指導の充実
- (8) 情報活用能力を育む情報教育
 - ① 言語能力、情報活用能力の確実な育成
 - ② タブレットの積極的な活用と情報リテラシーの指導の充実
 - ③ 情報モラルやネットトラブルへの危機意識の啓発
- (9) 一人一人のニーズに応じた特別支援教育
 - ① コーディネーターを中心とした全校体制によるきめ細やかな指導・支援の充実
 - ② 教育のユニバーサルデザイン化の推進
 - ③ 個別の指導計画・支援計画に基づく個に応じた指導の充実
 - ④ 家庭や地域、関係機関及び教職員間の密接な連携による指導の工夫
 - ⑤ 「校内研修プログラム」「実践事例集」（道教委）を活用した職員研修の実施
- (10) 自主性や主体性を育む部活動
 - ① 全教職員の理解と協力の下、生徒の個性や能力の伸長を図る部活動の推進
 - ② 保護者及び地域の方々の理解と協力の下、開かれた部活動への転換
 - ③ 働き方改革と部活動改革の推進

教育活動推進の重点を支える体制づくり

- (1) 校内組織の活性化
 - ① 検討事項の明確化等による職員会議の効率化
 - ② 校務運営委員会の活性化による、教頭を要とした組織体制の確立
 - ③ 組織的な取組による特別委員会の活性化
 - ④ 組織的・協働的な業務の遂行と改善による経営参画意識の向上
 - ⑤ 日常的な報告・連絡・相談・確認（ホウ レン ソウ カク）の徹底
 - ⑥ 全ての情報の共有、共通理解、共通指導とチェック機能の強化
- (2) 研修の充実
 - ① 授業改善のための、実効性のある校内研修の実施
 - ② キャリアステージに応じて求められる資質・能力向上のための校外研修への積極的な参加と研修内容の選流
 - ③ 教員育成指標や人事評価シートの活用による個人研修の充実

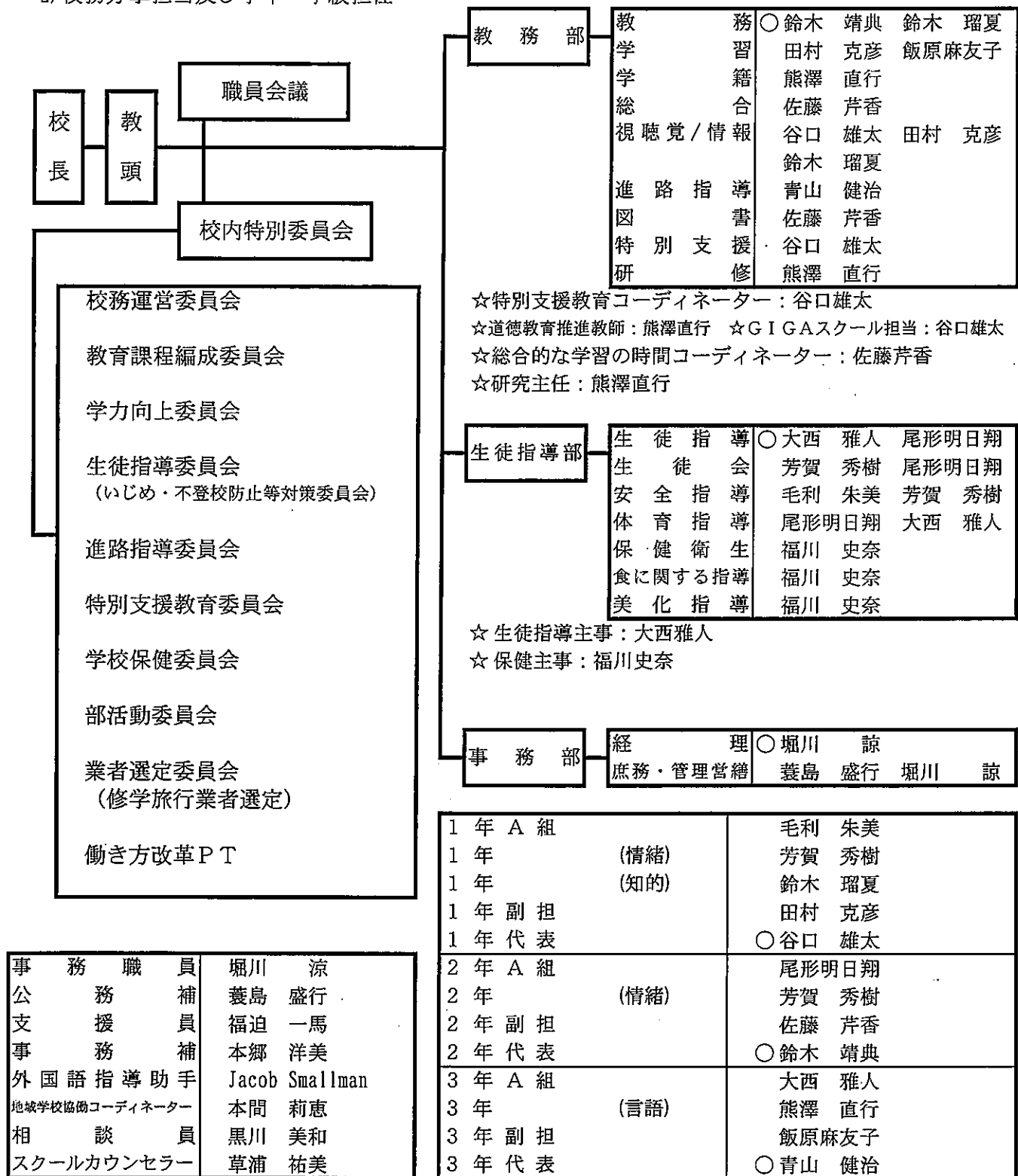
- (3) 校種間連携の推進
 - ① 町教研の活性化による小中連携の推進
 - ② 小学校との授業交流の推進
 - ③ 幼、小、高との連携による研修や授業参観、合同授業等の推進
- (4) 家庭・地域との連携
 - ① 各種通信等による家庭・地域との積極的な情報共有（発信・公開）
 - ② 保護者のニーズを踏まえた授業参観、懇親会等の実施による信頼関係の構築
 - ③ 学校評価を活用した保護者との信頼関係の強化
 - ④ 当事者に寄り添い丁寧に迅速な生徒指導事案への対応の徹底
- (5) 組織的な危機管理体制の構築
 - ① 危機管理体制の整備と研修の充実
 - ② 危機管理マニュアルの適切な管理と迅速な改善
 - ③ 学校における説明責任の意義を踏まえた情報提供
 - ④ 個人情報保護の徹底
- (6) 働き方改革の推進
 - ① 「北海道アクション・プラン」「下川町アクション・プラン」の実現
 - ② 1年単位の変形労働時間制への取組
 - ③ 『Road』の積極的な活用
 - ④ 働き方改革プロジェクトチームの活性化
 - ⑤ 在校時間・時間外勤務時間の集計と共有による意識改革の推進
 - ⑥ 学校閉庁日の実施
 - ⑦ 部活動改革の推進
 - ⑧ 内容の精選と適切で効率的な業務の推進
 - ⑨ 校務DXの推進

② 校務運営組織

1) 職員構成

校長	長頭	越久	湖須	憲美	治子	保養	健護	主務	事諭	福福	川川	史史	奈奈
教務主任	主事	鈴木	木西	靖雅	典人	養事	務公	職補	員補	堀堀	川川	盛盛	諒行
生徒指導主事	進路指導主事	大青	西山	健治						堀堀	川川	盛盛	諒行

2) 校務分掌担当及び学年・学級担任



(3) 教 育 関 係 委 員 等 の 状 況

①下川町教育委員会

区 分	氏 名	任 期
教 育 長	古 屋 宏 彦	R 6 . 7 . 1 ~ R 9 . 6 . 30
委 員	石 谷 英 人	R 2 . 10 . 1 ~ R 6 . 9 . 30
委 員	小 西 貴 弘	R 5 . 10 . 1 ~ R 9 . 9 . 30
委 員	佐 藤 導 謙	R 3 . 10 . 1 ~ R 7 . 9 . 30
委 員	枅 田 と も み	R 4 . 10 . 1 ~ R 8 . 9 . 30

②下川町教育支援委員会

区 分	氏 名	所 属
会 長	加 集 賢 一	下川町民生委員児童委員協議会
副 会 長	山 崎 春 日	下川町民生員児童委員協議会主任児童委員
委 員	越 湖 憲 治	下川中学校校長
〃	高 館 正 司	下川小学校校長
〃	尾 崎 智 行	下川小学校教諭
〃	宇 恵 慎 哉	〃
〃	鈴 木 靖 典	下川中学校教諭
〃	谷 口 雄 太	〃
〃	古 屋 い づ み	認定こども園園長
〃	蓑 島 美 奈 子	保健福祉課保健師

任 期 : R5. 4. 1 ~ R7. 3. 31

③下川町立学校医・学校歯科医・学校薬剤師

職 名	氏 名	所 属	担 当 学 校
学 校 医	片 野 英 俊	町立下川病院院長	下川小・下川中
〃	丸 山 直 紀	町立下川病院副院長	下川小・下川中
学校歯科医	末 次 博	吉田病院歯科院長	下川小・下川中
学校歯科医	大 野 多 美 子	吉田病院歯科医	下川小・下川中
学校歯科医	先 川 信	吉田病院歯科医	下川小・下川中
学校薬剤師	佐 藤 誠 恵	(株)ナカジマ薬局	下川小・下川中 (R6. 7. 1~)

任 期 : R6. 4. 1 ~ R7. 3. 31

④下川町学校運営協議会

区分		氏 名	所 属
	小学校推薦	野 崎 晃 史	下川小学校PTA会長
		大 石 陽 介	認定こども園こどものもり 保護者代表
		西 村 和 樹	しもかわ観光協会会長
		尾 崎 智 行	下川小学校教諭
副会長	中学校推薦	寺 澤 勇 大	下川商業高等学校PTA会長
		山 口 司	株式会社谷組 専務取締役
		白 木 薫	株式会社マルウささき
		鈴 木 靖 典	下川中学校教諭
会 長	教育委員会 推薦	麻 生 翼	NP0法人森の生活 代表 旧共育ビジョン委員
		田 中 由 紀 子	株式会社下川シーズ 旧共育ビジョン委員
		立 花 祐 美 子	タウンプロモーション推進部 旧共育ビジョン委員
		瀬 川 聖 子	社会教育委員

任 期 : R5. 4. 1 ~ R7. 3. 31

⑤下川町いじめ問題対策連絡協議会

区 分	氏 名	所 属
会 長	田 村 泰 司	下川町長
職務代理	古 屋 宏 彦	下川町教育委員会教育長
	高 舘 正 司	下川小学校長
	越 湖 正 司	下川中学校長
	野 崎 晃 史	下川小学校PTA会長
	伊 藤 亜 由 子	下川中学校PTA会長
	宮 腰 秀 昭	名寄警察署下川駐在所長
	加 藤 哲 雄	下川町交通安全防犯協会会長
	川 島 里 美	名寄警察署少年補導員連絡協議会下川支部
	西 村 義 和	下川町民生委員児童委員協議会会長
	高 原 義 輝	保健福祉課長
	齋 藤 英 夫	町民生活課長

任 期 : R5. 4. 1 ~ R7. 3. 31 (委嘱予定)

令和6年度社会教育事業計画及び公民館運営事業計画（案）

Ⅰ 生涯学習

① 家庭教育

【推進目標】

事業名	時 期	場 所	主催等	内 容
1 ブックスタート	4～2月	総合福祉センター	公民館	年5回 6～7か月乳児相談時に実施
2 ブックスタート フォローアップ	4～2月	総合福祉センター	公民館	年7回 1歳6か月児・3歳児健診終了後に実施
3 親子劇場	6月23日 6月24日	ハピネス	教育委員会 公民館 青推協	親子対象で実施 6/23一般向け、6/24こども園向け
4 下川町父母と先生の会連 合会	通年	小・中学校	教育委員会	2団体（小学校・中学校） 活動支援
5 親子遊び	通年	町民会館児童室	教育委員会	就学前児童の親子遊びの場

② 少年教育

【推進目標】

事業名	時 期	場 所	主催等	内 容
1 少年の主張 上川総合振 興局地区大会	7月12日	上川合同庁舎	上川総合振興 局・上川教育 局	中学生1名代表選出（参加後援：青 推協）
2 社会を明るくする運動提 灯行列パレード	7月12日	町内	下川町社会を 明るくする運 動実施委員会	参加協力（子ども会）
3 夏の非行防止等チラシ配 布	7月24日	全児童生徒配布	青推協	小・中学校、下商高に配付
4 夏休みラジオ体操inしも かわ	7月26日 ～8月10日	安原公園	青推協	詳細は青推協にて決定
5 町内巡視	8月8日 8月31日	町内	青推協	下川神社祭 うどんまつり
6 北海道地域子ども会リー ダー研修会	8月9日～12日 9月14日～16日	ネイバル足寄 ネイバル深川	北海道教育庁	参加者なし
7 上川地区地域子ども会交 流会	11月9日	士別市	上子連	参加者なし
8 北海道子ども会かるた大 会上川地区予選	12月1日	士別市	上子連	北海道大会2月16日（定山溪） 参加者なし
9 青少年芸術劇場	小学校 9/20 中学校 12/10	小学校：体育館 中学校：体育館	教育委員会	小学校 世界の打楽器リズムコン サート 中学校 和洋の楽器で心がおどる名 曲コンサート
10 青少年非行防止標語募集	募集7月 表彰2月	公民館	青推協	小中学生、下商高校生対象
11 モミの木クリスマス会	12月7日	バスターミナル	下子連	小中学生対象
12 キッズスクール	通年	公民館等	教育委員会、 公民館、キッ ズスクール	小学生の体験活動等
13 放課後児童クラブ	通年	町民会館児童室	教育委員会	放課後児童の健全育成（2月末時点）
14 青少年健全育成推進協議 会	通年	町内	青推協	各種団体活動支援他
15 スポーツ少年団本部	通年	町内	スポーツ少年団本部	2団体 活動支援
16 子ども会育成連絡協議会	通年	町内	下子連	9団体 活動支援
17 「子ども110番の家」設置	通年	町内	青推協	3月末現在67件
18 青色回転灯 自主パト ロール	通年	町内	青推協 教育委員会	
19 小学校総合の授業支援	通年	町内	小学校、教育 委員会	
20 小学校クラブ活動支援	通年	町内	小学校、教育 委員会	
21 中学校総合の授業支援	通年	町内	中学校、教育 委員会	
22 下川商業高等学校課題研 究支援	通年	町内	下川商業高 校、教育委員 会	グループ学習と個別学習を複合して 地域住民と連携して実施

③ 成人教育

【推進目標】

事業名	時 期	場 所	主催等	内 容
1 図書館活動支援ボックス (道立図書一括貸出)	5月、10月	道立図書館	公民館	年2回一括貸出(各300冊)
2 除籍本無料配布	8月16日～ 9月1日	公民館	公民館	135名利用 17日間開催
3 はたちを祝うつどい	1月11日	バスターミナル	教育委員会	
4 マイプラン・マイスタ ディー事業	通年	公民館等		年4事業想定
5 公民館講座	6月11日	公民館等	教育委員会、 公民館	テーマ：知っていますか「やさしい 日本語」
6 下川町文化協会	通年	公民館ほか	教育委員会	9団体 活動支援
7 町民会館図書室	通年	図書室	公民館	蔵書管理・読書活動推進
8 図書室ボランティア募集	通年	図書室	公民館	事業・運営協力

④ 高齢者教育

【推進目標】

事業名	時 期	場 所	主催等	内 容
1 上川管内高齢者学びのつ どい	終了		上川教育局	令和6年2月 上川教育局より事業終 了の通知
2 四町高齢者大学交流研修 会	未定		4市町教育委員会	和寒町・剣淵町・名寄市風連・下川 町の4市町で研修
4 高齢者作品巡回展	2月27日～ 3月3日	上川北部各公民 館	上川北部公民館 ネットワーク	公民館ロビーにて展示
3 高齢者学級	通年		公民館	出前講座の開催を検討

⑤ 生涯学習基盤整備

【推進目標】

事業名	時 期	場 所	主催等	内 容
1 社会教育団体活動調査	4月～5月	教育委員会	教育委員会	
2 社会教育委員・公民館運 営審議会	6月25日 3月	公民館	教育委員会 公民館	年2回開催
3 視聴覚ライブラリー委員 会議	7月8日 1月(書面会議)	公民館	教育委員会	年2回開催
4 道立図書一括借受(再 掲)	5.10月	道立図書館	公民館	年2回一括借受 各300冊
5 教育の概要		町内	教育委員会	
6 文化奨励賞	11月3日		教育委員会	該当者なし
7 図書室だより	毎月	広報	公民館	新刊案内等
8 公民館だより	通年	IP, LINE	公民館	行事案内等
9 各種ボランティア募集	通年	町内	教育委員会	キッズスクールサポーター 図書ボランティア しもかわ共育サポーター
10 社会教育関係団体登録	通年	町内	教育委員会	活動支援、助言
11 視聴覚教材購入・目録整 理	通年	図書室	教育委員会	DVD等購入・整理
12 図書購入	通年	図書室	公民館	一般書籍・児童書

II 生涯スポーツ

① 健康スポーツ

【推進目標】

事業名	期 間	場 所	主催等	内 容
1 森林環境教育「もりさんぽ」	5月～2月	みくわが丘等	公民館	森ヨガ、化石探し等
2 夏休みプール教室	8月	B&G海洋セン	公民館	小学生対象
3 水辺の安全教室	7月	B&G海洋セン ター	公民館	ライフジャケット浮き・ペットボ トル浮き・着衣水泳・SUP体験等
4 町民体力測定	6月10～18日	下川小学校	公民館	小学1年生～6年生
5 軽スポーツ教室	2月	未定	公民館	
6 スキージャンプ教室	12月	スキー場	公民館	幼児から一般
7 スキージャンプ見学会	—	公民館等	公民館	実施なし
8 冬休みスキー教室	1月	スキー場	公民館	
9 スポーツ指導者講習会	3月	未定	公民館	
10 各種軽スポーツ指導	通年	スポーツセン ター等	公民館	各種団体の要望対応

② 競技スポーツ

【推進目標】

事業名	期 間	場 所	主催等	内 容
1 第36回しもかわ万里長城 クロスカントリー大会	5月19日	桜ヶ丘公園内	教育委員会	
2 第20回万里長城パークゴ ルフ場オープン記念大会	6月2日	万里長城パーク ゴルフ場	町、公民館	
3 第16回公区対抗町民パー クゴルフ大会	7月28日	万里長城パーク ゴルフ場	公民館	
4 第20回町長杯町民パーク ゴルフ大会	9月7日	万里長城パーク ゴルフ場	町、公民館	
5 第40回全道ノルディック スキー競技大会	12月28日	スキー場	教育委員会 下川スキー協会	
6 ジュニアノルディックス キー選手の育成強化	通年		教育委員会	専門指導員2名体制による選手強化
7 スポーツ少年団本部 (再掲)	通年		スポーツ少年 団本部	各種大会活動支援、助言等
8 下川町スポーツ協会	通年		スポーツ協会	各種大会活動支援、助言等
9 各種社会体育関係団体活 動	通年		各種社会体育 団体	各種大会活動支援、助言等

③ スポーツ基盤

【推進目標】

事業名	期 間	場 所	主催等	内 容
1 スポーツ奨励賞	7月26日	バスターミナル 合同センター	教育委員会	郡司真那さん
2 スポーツ推進委員会議	2月	公民館	教育委員会	
3 スポーツ実技指導	通年		教育委員会	
4 学校施設開放	通年	下川小中学校体育 館・グラウンド	教育委員会	
5 指定管理者による体育施 設管理	通年	スポーツセン ター等	教育委員会	指定管理者による管理・運営

Ⅲ 芸術文化

① 芸術文化

【推進目標】

事業名	時期	場所	主催等	内 容
1 町民文化祭	11月2日・3日	公民館	実行委員会	展示、芸能実施
2 青少年芸術劇場（再）	小学校 9/20 中学校 12/10	小学校：体育館 中学校：体育館	教育委員会	小学校 世界の打楽器リズムコンサート 中学校 和洋の楽器で心がおどる名曲コンサート
3 ふれあいイベント	9月7日	公民館大ホール	実行委員会	半崎美子コンサート
4 親子劇場（再）	6月23日 6月24日	ハピネス	教育委員会 公民館 青推協	親子対象で実施 6/23一般向け、6/24こども園向け

② 文化財の保護及び活用

【推進目標】

事業名	時期	場 所	主催等	内 容
1 指定文化財保存等交付金	通年	町内	教育委員会	上名寄郷土芸能保存会
2 文化財収集整理作業	通年	ふるさと交流館 旧菱光小学校 札天山収蔵館	教育委員会	各種郷土資料の収集・整理・保存等

③ 文化基盤

【推進目標】

事業名	時 期	場 所	主催等	内 容
1 文化奨励賞	11月3日		教育委員会	該当者なし
2 郷土資料展示保存施設		札天山収蔵館	教育委員会	予約対応検討中
3 郷土資料展示施設		ふるさと交流館	教育委員会	予約対応検討(9月臨時開館)
4 文化財保護審議会	未定	公民館	教育委員会	

(2) 令和6年度下川町公民館運営方針

1. 重点目標

- (1) 生涯各期における生活課題や現代的課題に対応した学習機会の提供に努める。
- (2) 生涯学習の視点に立ち、自らが自主的に学習できる環境に努める。
- (3) 生きがいづくりのため、ボランティア活動の推進に努める。
- (4) スポーツの日常生活化を目指し、住民の健康増進、スポーツ愛好者の底辺拡大に努める。
- (5) 児童生徒対象に各種スポーツ教室を行い、スポーツの底辺拡大に努める。
- (6) 地域文化の創造をめざす個性豊かな芸術文化活動の推進に努める。
- (7) 地域の生活文化を創造的に高めるため、団体・サークルの育成に努める。
- (8) 様々な情報媒体を活用した広報活動による、情報の提供に努める。

2. 事業の推進

(1) 公民館活動の充実

- ① 生涯学習活動の拠点として、地域の実態に応じた特色ある活動を積極的に展開する。
- ② 生きがいのある人生を築くため、うるおいのある人づくり、地域づくりを目指す。
- ③ 公民館や各種施設の利用拡大と有効利用を図る。

(2) 学級・教室・講座等の充実

- ① 学習者の主体性が適切に発揮できるように配慮する。
- ② 様々な年齢や性別に対応した学習機会の提供に努める。
- ③ 下川町の特徴を活かした学習機会の提供に努める。
- ④ 家庭教育力向上や生活課題、現代的課題に対応した学習機会の拡充に努める。
- ⑤ 学習等の運営にあたっては、自主的、自発的な運営を推奨する。
- ⑥ 年齢や体力等、様々な運動に親しめる学習機会の拡充に努める。

(3) 地域連帯・生活文化の創造を目指す各種事業

- ① 身近な生活文化を高める諸活動を充実し、文化協会、スポーツ協会等地域関係団体と連携を図り、心の豊さを求める事業を推進する。
- ② 家庭・地域・学校との連携・協力を図り、地域で子どもを育てる意識が高まるよう努める。

(4) 町民会館図書室活動の充実

- ① 読書に親しむ生活習慣を乳幼児期から育成する。
- ② 利用しやすい図書室を目指し、書籍、視聴覚教材、図書情報の収集、託児室等の整備を図る。
- ③ 読み聞かせグループの育成や読書機会の拡充に努める。
- ④ 読書週間の実施による利用者の拡充に努める。

(5) 自主運営グループの育成

- ① 自主企画事業に対する相談・奨励や公民館講座終了後のサークル化支援に努める。
- ② 文化、スポーツサークルの自立化を支援し、文化協会、スポーツ協会への参加を推進する。

(6) 調査・広報活動

- ① 様々な媒体を活用した広報活動を推進し、住民に情報を提供する。
- ② 公民館の運営のあり方や事業の展開方法について、地域住民の意見や要望を積極的に取り入れる。

(7) 公民館運営審議会

- ① 地域住民の動向や学習要求、地域の課題等、幅広く情報収集にあたる。
- ② 公民館が行う住民の教育、芸術及び文化向上のための各種事業企画について審議する。

(3) 社会教育関係各種委員の状況

①下川町社会教育委員及び

下川町公民館運営審議会委員

区分	氏 名	選 考 区 分
委員長	瀬 川 聖 子	家庭教育関係者
副委員長	名 畑 格	学識経験者
委 員	高 館 正 司	学校教育関係者
〃	越 湖 憲 治	学校教育関係者
〃	濱 下 昌 也	学校教育関係者
〃	品 地 和 彦	社会教育関係者
〃	西 村 義 和	学識経験者
〃	長 尾 綾	家庭教育関係者
〃	河 村 奈 央 子	社会教育関係者
〃	押 田 す み え	社会教育関係者

任 期 : R6. 4. 1 ~ R8. 3. 31

②下川町スポーツ推進委員

区分	氏 名	所 属 等
委員長	遠 藤 和 之	スキージャンプ
副委員長	野 崎 晃 史	剣道
委 員	宮 本 桂	バスケットボール
〃	河 村 奈 央 子	登山、水泳
〃	尾 形 明 日 翔	野球
〃	勝 本 真 帆	バレーボール
〃	弓 野 華 緒	アルペンスキー、ソフトテニス
〃	山 口 陽 子	バトミントン、バレーボール

任 期 : R6. 4. 1 ~ R7. 3. 31

③下川町文化財保護審議会委員

区分	氏 名
会 長	森 清 次
副会長	名 畑 格
委 員	矢 筈 原 豊
〃	上 ヶ 島 吉 夫
〃	小 原 久 典

任 期 : R6. 4. 1 ~ R8. 3. 31

④下川町視聴覚ライブラリー委員

区 分	氏 名
会 長	藤 原 佑 輔
副 会 長	遠 藤 裕 美
委 員	宮 田 桃 伽
〃	矢 野 圭 子
〃	伊 藤 蘭
〃	岩 田 由 佳
〃	大 池 八 千 代
〃	南 崇 宏
〃	平 井 知 佳
〃	佐 藤 芹 香

任 期 : R6. 4. 1 ~ R8. 3. 31

④下川町町民会館児童室運営委員及び

放課後子どもプラン運営委員

区 分	氏 名	所 属 等
会 長	野 崎 晃 史	小学校PTA会長
副 会 長	平 野 知 佳	児童クラブ保護者代表
委 員	佐 藤 仁 彦	小学校教頭
〃	神 谷 智 美	児童クラブ厚生員
〃	山 崎 春 日	民生委員児童委員協議会主任児童員
〃	押 田 す み え	民生委員児童委員協議会主任児童員
〃	堀 北 忠 克	保健福祉課主幹
〃	勝 元 尚 子	子ども会育成連絡協議会会長
〃	大 石 陽 介	認定こども園保護者代表
〃	長 尾 綾	キッズスクール指導員

任期 : 委嘱時~R6. 3. 31

⑥下川町青少年育成推進協議会役員

区 分	氏 名	所 属 等
会 長	古 屋 宏 彦	下川町教育委員会教育長
副 会 長	高 館 正 司	下川小学校長
〃	越 湖 賢 治	下川中学校長
〃	濱 下 昌 也	下川商業高等学校長
理 事	野 崎 晃 史	下川小学校ＰＴＡ会長
〃	伊 藤 亜由子	下川中学校ＰＴＡ会長
〃	寺 澤 勇 大	下川商業高等学校ＰＴＡ会長
〃	西 村 義 和	下川町民生委員児童委員協議会長
〃	加 藤 哲 雄	下川町交通安全防犯協会長
〃	川 島 里 美	名寄警察署少年補導員連絡会下川支部長
〃	高 原 義 輝	下川町保健福祉課長
〃	齋 藤 英 雄	下川町町民生活課長
委 員	庄 子 幸 恵	下川町子ども会育成連絡協議会長
〃	仁 木 茂 則	下川町スポーツ少年団本部長
〃	加 藤 久	下川町社会福祉協議会長
〃	松野尾 道雄	名寄地区保護司会下川支部長
〃	山 崎 春 日	下川町人権擁護委員
〃	加 藤 幸 夫	下川町公区長連絡協議会長
〃	三津橋 英実	下川町商工会長
〃	宮 腰 秀 昭	名寄警察署下川駐在所長
監 事	森 義 幸	下川町交通安全指導員会長
〃	伊 東 英 晴	下川消防署長
〃	杉 山 周 平	北海道青少年健全育成運動推進指導員

任 期 ： R6. 4. 1 ～ R8. 3. 31

(4) 令和6年度 社会教育関係団体の状況

①各種団体連合会等

名 称	代表者名	事務局（名）	会 員 数
下川町父母と先生の会連合会	伊藤 亜由子	久須美 晶子	1 4 5
下川町文化協会	杉之下 正樹	多田 淳浩	1 4 0
下川町子ども会育成連絡協議会	庄子 幸恵	教育委員会教育課	2 1 2
下川町スポーツ協会	仁木 茂則	栗原 一清	1 8 9
下川町スポーツ少年団本部	仁木 茂則	栗原 一清	1 3 8
下川町青少年健全育成推進協議会	古屋 宏彦	小林 大生	3 6

1) 下川町父母と先生の会連合会

会 長	伊 藤 亜由子	事務局長	久須美 晶 子
副会長	野 崎 晃 史	庶 務	熊 澤 直 行
”	高 館 正 司	会 計	堀 川 諒

加盟PTA団体

名 称	代 表 者	会 員 数	備 考
下川小学校PTA	野 崎 晃 史	1 1 3	
下川中学校PTA	伊 藤 亜由子	5 4	
計	2 団体	1 6 7	

2) 下川町文化協会

会 長	杉之下 正 樹	事務局長	多 田 淳 浩
副会長	森 清 次	会 計	多 田 淳 浩
”	武 藤 久 志		

加盟文化サークル

区 分	サークル名	代 表 者	事務局（名）	会 員 数
絵 画	下川柏葉会	萬比呂比古	多田 淳浩	1 0
書 道	下川書道愛好会	田中 賢治	伊藤 浅子	7
舞 踊	上名寄郷土芸能保存会	黒川 仁一	名畑 格	4 0
歌 謡	下川歌謡研究会	武藤 久志	武藤 久志	1 3
歌 謡	下川カラオケ愛好会	田中 良一	田中 良一	2 0
陶 芸	下川陶芸愛好会竜胆	岡崎 哲子	小野 春恵	7
囲 碁	下川囲碁同好会	坪田 篤雄	河端 正敏	9

太 鼓	下川溪流太鼓	浅水 直樹	押田すみえ	2 3
写 真	ニッコールクラブ道北支部下川	森 清次	森 清次	1 1
計	9 団体			1 4 0

3) 子ども会育成連絡協議会

会 長 庄 子 幸 恵

事務局 下川町教育委員会教育課

副会長 田 邊 真理恵

加盟子ども会

区 域 名	名 称	子 ど も 育 成 会		子供会 会員数	合 計 会員数
		会 長 名	会員数		
上名寄	上名寄連合子供会	渡 邊 匡 子	1 2	1 0	2 2
中成北・元町公区	中成北・元町子ども会	野 崎 愛 美	3	2 3	2 6
中成南公区	中成南子ども会	庄 子 幸 恵	3	2 5	2 8
北町・幸町・共栄町公区	北町・幸町・共栄町子ども会	田 邊 真 理 恵	2	1 2	1 4
錦町公区	錦町公区子ども会	小笠原香代子	2	2 1	2 3
旭町公区	旭町あけぼの子供会	黒 川 美 由 紀	2	1 9	2 1
緑町・三和・一の橋・二の橋公区	緑町・ひふみ橋子供会	甫 木 は る か	0	1 8	1 8
末広公区	末広青空子ども会	和 田 麻 幸	3	4 7	5 0
新町・班溪公区	新町・班溪子ども会	佐 川 な つ み	5	5	1 0
	9 団体		3 2	1 8 0	2 1 2

4) 下川町スポーツ協会

会 長 仁 木 茂 則
副会長 堀 北 忠 克

事務局 長 栗 原 一 清
事務局次長 伊 藤 克 彦

加盟体育団体

種 目	団 体 名	会 長	事務局(名)	会員数
野 球	下川軟式野球連盟	丹 野 重 男	塩 田 晃 久	2 4
柔 道	下川柔道連盟	山 下 邦 廣	南 澤 茂	1 3
剣 道	下川剣道連盟	小 原 強	小原美紀子	1 1
山 岳	下川山岳会	加 集 賢 一	堀 北 忠 克	2 1
ソ フ ト テ ニ ス	下川ソフトテニス協会	市 村 茂 雄	弓 野 直 美	1 9
ス キ ー	下川スキー協会	押 田 真	堀 北 忠 克	1 8
バ ド ミ ン ト ン	下川バドミントンクラブ	仁 木 茂 則	平 木 達 也	1 5
パ ー ク ゴ ル フ	下川町パークゴルフ協会	西 島 勲	武 藤 久 志	6 8
計	8 団体			1 8 9

5) 下川町スポーツ少年団本部

本 部 長 仁木茂則

事 務 局 栗 原 一 清

加盟スポーツ少年団

種 目	団体名	少年団		後援会・育成会		合計 人数
		団長名	団員数	会長名	会員数	
剣 道	下川剣道スポーツ少年団	平 田 悠 人	8	遠 藤 謙 太	9	1 7
柔 道	下川柔道スポーツ少年団	丹 野 雄 介	1 1	黒川美由希	1 4	2 5
野 球	下川野球少年団	渡 邊 潤	1 3	工藤真理子	1 3	2 6
ス キ ー	下川ジャンプ少年団	長谷川琉己	1 8	菊 池 崇 史	5	2 3
サッカー	下川サッカー少年団	水 間 空 汰	2 5	檜 森 千 尋	2 2	4 7
計	5 団体		7 5		6 3	1 3 8

②その他社会教育関係団体

名 称	代 表 者	事務局（名）	会 員 数
シルバーアートの会	末 武 久 恵	本 田 久 美	6
下川英会話愛好会	日 野 昭 雄	山 下 節 子	9
下川ジャンプスキー選手後援会	高 橋 裕 明	堀 北 忠 克	165
下川商業高等学校PTA	寺 澤 勇 大	村 上 究	101
NPO 法人森の生活	麻 生 翼	児 玉 こずえ	25
Join The Heart	富 岡 達 彦	竹 本 礼 子	14
下川木彫匠会		遠 藤 里 美	3
子育てクラブカナカナ	瀬 川 聖 子	瀬 川 聖 子	20
こども運動サークル「しもかわっこ」	庄 子 幸 恵	平 野 知 佳	22
下川スキーパトロール奉仕団	押 田 真	横 井 雅 江	10
下川軽スポーツ愛好会	前 田 千 穂	藤 原 省 吾	14
ステップアップ	千 葉 真 由 美	竹 本 礼 子	25
下川りくらしネット	田 中 由 紀 子	田 中 由 紀 子	19
下川ネクストバスケットボールクラブ	宮 本 桂	馬 場 恵 子	9
計	14団体		442

(5)下川町の文化財

◎無形文化財第1号 「上名寄郷土芸能」

(麦や節・郡上節・こだいじん)

- ・指定年月日 昭和39年10月14日
- ・伝承者 上名寄郷土芸能保存会
(会長 黒川 仁一)
- ・伝承経過

明治34年に岐阜県郡上郡高鷺村(現郡上市)から上名寄地区に入植した開拓者が、開拓の苦しみの中で故郷を偲び、唄い踊られ今日まで伝えられてきたものである。

昭和39年9月6日に、これを永く後世に残すため保存会が発足し、以来保存に努め現在にいたっている。

- ・発祥地

「麦や節」 富山県五箇山(富山県東砺波郡)

「郡上節」 岐阜県郡上市

「こだいじん」 富山県五箇山(富山県東砺波郡)

- ・由来

・麦や節… 五箇山は平家の落人が身をしのばせたところといわれ、歌詞の中にもなにかしら人目をはばかる落武者の心情をうたわれている感があるところから、平家踊りとも言われる。

・郡上節… 郡上踊りともいい、郡上郡八幡町(現郡上市)の盆踊りの唄である。八幡町は長良川の上流盆地にある旧青山氏4万8千石の城下町で、青山氏は官民和合のために盆踊りを奨励したが、それがこの踊りの始まりといわれている。

・こだいじん… 富山県五箇山には数多くの民謡が温存されており、その中にこだいじんとして仕事をしながら気やすく唄われ、踊られたものと伝えられている。

◎天然記念物第1号 「はるにれ」

- ・所在地 下川町西町40番地(小学校校庭)
- ・指定年月日 昭和39年10月14日
- ・管理者 下川小学校
- ・由来

樹齢約830年(直径約136cm、樹高約23m)と推計され、下川簡易教育所(明治40年12月建設)の前に切り残されたもので、現在町立下川小学校校舎前にそびえている。

昭和43年9月に北海道100年記念事業の名木・美林の選定にも名木として選定された。

さらに、昭和49年3月30日付で、北海道自然保護条例に基づき、下川小学校開校記念保護木としても指定されている。

◎天然記念物第2号 「下川鳴る石」

- ・所在地 下川町珊瑚
(国有林下川事業区34林班)
- ・指定年月日 昭和57年12月10日
- ・管理者 上川北部森林管理署
- ・由来

新第三紀中新世紀(2,500万年前~1,000万年前)の火山噴火物で、サンル溶岩といわれる流紋岩の球礫であって、直径が数ミリメートルから数センチメートルのものが多く、手にとって振ると「サラサラ」と音を出す。空洞内に晶出している石英が剥離して音を出す。

町内遺跡包蔵地地図

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	上名寄チャシ跡	11	北町C遺跡	21	矢文1遺跡
2	佐藤遺跡	12	シカリベツ遺跡	22	北町高原遺跡
3	北町遺跡	13	川向遺跡	23	北町伊藤遺跡
4	高瀬遺跡	14	桜ヶ丘遺跡	24	浄水場下遺跡
5	モサナル遺跡	15	二の橋2遺跡	25	松岡遺跡
6	浅野遺跡	16	浜和遺跡	26	幸成2遺跡
7	二の橋遺跡	17	三の橋遺跡	27	矢文2遺跡
8	北町B遺跡	18	ルベA遺跡	28	上名寄1遺跡
9	ペンケ遺跡	19	上ヶ島遺跡	29	上名寄2遺跡
10	幸成遺跡	20	武石遺跡	30	矢文3遺跡



No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
31	矢文4遺跡	46	幸成3遺跡	61	三の橋5遺跡
32	矢文5遺跡	47	二の橋3遺跡	62	上名寄6遺跡
33	川向2遺跡	48	二の橋4遺跡	63	上名寄7遺跡
34	桜ヶ丘A遺跡	49	三の橋4遺跡	64	前サナル1遺跡
35	南町遺跡	50	ペンケ2遺跡	65	前サナル2遺跡
36	三の橋2遺跡	51	ペンケ3遺跡	66	サナル11線遺跡
37	三の橋3遺跡	52	北町F遺跡	67	サナル5線遺跡
38	北町D遺跡	53	北町G遺跡	68	サナル4線遺跡
39	北町E遺跡	54	北町H遺跡	69	北町1遺跡
40	環溜川向遺跡	55	北町I遺跡	70	上名寄8遺跡
41	上名寄3遺跡	56	上名寄4遺跡		
42	桑の沢1遺跡	57	上名寄5遺跡		
43	班溪1遺跡	58	班溪2遺跡		
44	桑の沢2遺跡	59	班溪3遺跡		
45	桑の沢3遺跡	60	西町1遺跡		



(6)下川町社会教育関係表彰状況

①旧表彰規則による表彰者

年度	区分	受賞者名
昭和 32	教	安藤 操
昭和 33	教	土屋直太郎
昭和 34	教	村上 美代
昭和 38	教	伊東 美勝 佐藤 富喜
昭和 39	文	井上 文山 下川柏葉会
	ス	村上 良雄 石川 政勝
昭和 40	教	平 恵美
	文	大山 泉雪
昭和 50	教	柴田 英一
昭和 53	教	窪田 銀治 佐藤 定行
	文	稲村 頌山
昭和 56	ス	佐々木 周一 石川 政勝

※教：教育文化功績表彰、文：文化賞、
ス：スポーツ賞

②下川町文化賞

年度	受賞者名	備 考
昭和 57	佐藤 定行	文化協会長
	狭布里 哲也	体育協会長、柔道連盟、スキー協会設立
昭和 58	山 口 昂	学校医として健康づくり
	石川 政勝	剣道
昭和 60	井上 キミエ	茶道、華道
平成元	川原 悠山	尺八・音楽振興
	上名寄郷土保存会	保存・伝承
平成 7	中内 伊勢吉	文化財
平成 13	谷 静 子	茶道
平成 14	本田 榮太郎	文化協会長
平成 16	文梨 政幸	詩作
平成 20	西野 徳義	写真
平成 28	田端 英雄	書道
平成 30	武藤 ミエ	短歌

③下川町特別町民栄誉賞

年度	受賞者名	備 考
平成 26	葛西 紀明	ソチ冬季オリンピックスキージャンプ個人ラージヒル銀メダル、団体銅メダル

④下川町町民栄誉賞

年度	受賞者名	備 考
平成 7	岡部 孝信	'95 ノルディックスキー世界選手権サンダーベイ大会ジャンプノーマルヒル個人金メダル、団体銅メダル

年度	受賞者名	備 考
平成 14	葛西 紀明	アルペールビル・リレハンメル・長野・ソルトレーク冬季オリンピックスキージャンプ 4 大会連続出場
平成 26	伊東 大貴	ソチ冬季オリンピックスキージャンプ団体銅メダル
平成 27	伊藤 有希	'15 ノルデックスキー世界選手権大会ジャンプ個人戦銀メダル、ジャンプ混合団体銅メダル

⑤下川町レジェンドスポーツ賞

年度	受賞者名	備 考
令和 6	葛西 紀明	ワールドカップ最多出場 578 試合に更新、ギネス記録新たに 2 つ認定：ワールドカップ最年長表彰台 44 歳 293 日、ワールドカップ最年長ポイント獲得（30 位以内）

⑥下川町特別スポーツ功労賞

年度	受賞者名	備 考
平成 18	岡部 孝信	トリノ冬季オリンピックスキージャンプ団体第 6 位、ラージヒル第 8 位
	葛西 紀明	トリノ冬季オリンピックスキージャンプ団体第 6 位、冬季オリンピック 5 大会連続出場
平成 19	岡部 孝信	'07 ノルデックスキー世界選手権札幌大会スキージャンプ団体銅メダル
	葛西 紀明	'07 ノルデックスキー世界選手権札幌大会スキージャンプ団体銅メダル
平成 21	岡部 孝信	'09 ノルデックスキー世界選手権大会スキージャンプ団体銅メダル
	葛西 紀明	'09 ノルデックスキー世界選手権大会スキージャンプ団体銅メダル
	伊東 大貴	'09 ノルデックスキー世界選手権大会スキージャンプ団体銅メダル

平成 22	岡部 孝信	バンクーバー冬季オリンピック日本選手団主将を務める。
平成 22	葛西 紀明	バンクーバー冬季オリンピックスキージャンプ団体第5位、個人第8位、冬季オリンピック6大会連続出場
	伊東 大貴	バンクーバー冬季オリンピックスキージャンプ団体第5位
平成 27	葛西 紀明	'15 ノルディックスキー世界選手権大会ジャンプ混合団体銅メダル
平成 28	葛西 紀明	スキーワールドカップ通算 500 試合参戦
平成 29	葛西 紀明	世界選手権最多・最年長出場、ワールドカップ最年長表彰台
	伊東 大貴	'17 ノルディックスキー世界選手権ラハティ大会ジャンプ混合団体銅メダル
	伊藤 有希	'17 ノルディックスキー世界選手権ラハティ大会ジャンプ女子ノーマルヒル銀メダル、混合団体銅メダル
平成 30	葛西 紀明	平昌冬季オリンピックスキージャンプ団体第6位、冬季オリンピック最多 8 大会連続出場、ワールドカップ最多出場
	伊東 大貴	平昌冬季オリンピックスキージャンプ団体第6位、冬季オリンピック 4 大会連続出場
令和 1	葛西 紀明	スキーワールドカップ最年長及び最多出場 566 試合
	伊東 大貴	'19 ノルディックスキー世界選手権大会ジャンプ団体銅メダル
令和 2	葛西 紀明	スキーワールドカップ最年長及び最多出場 569 試合
令和 4	伊藤 有希	北京冬季オリンピックスキージャンプの混合団体戦 4 位、ワールドカップ個人戦 3 位入賞

⑦下川町スポーツ功労賞

年度	受賞者名	備考
平成 10	岡部 孝信	長野冬季オリンピックスキージャンプ団体金メダル、ラージヒル第 6 位
平成 30	伊藤 有希	平昌冬季オリンピックスキージャンプノーマルヒル第 9 位、冬季オリンピック 2 大会連続出場、ワールドカップ表彰台 3 回
令和 1	伊藤 有希	'19 ノルディックスキー世界選手権大会ジャンプ団体第 6 位、男女混合団体第 5 位
令和 3	伊藤 有希	'21 ノルディックスキー世界選手権大会ジャンプ団体第 4 位、男女混合団体第 5 位
	佐藤 慧一	'21 ノルディックスキー世界選手権大会ジャンプ団体第 4 位
令和 4	伊東 大貴	北京冬季オリンピックで 5 度目の日本代表選手に選出
令和 5	伊藤 有希	'23 ノルディックスキー世界選手権大会ジャンプ個人第 6 位、団体第 5 位、男女混合団体第 5 位

⑧下川町特別スポーツ栄誉賞

年度	受賞者名	備考
平成 10	葛西 紀明	長野冬季オリンピックスキージャンプノーマルヒル第 7 位
平成 19	伊東 大貴	'07 ノルディックスキー世界選手権札幌大会ジャンプ団体銅メダル
平成 22	加藤 大平	バンクーバー冬季オリンピックスキコンバインド団体第 6 位
平成 26	伊藤 有希	ソチ冬季オリンピックスキージャンプ女子ノーマルヒル 7 位
令和 2	佐藤 慧一	'20 コンチネンタルカップ個人優勝、サマーグランプリ団体優勝
令和 5	二階堂 蓮	'23 ノルディックスキー世界選手権大会ジャンプ初代表

年度	受賞者名	備 考
令和 6	伊藤 有希	2023-2024 シーズンワールドカップ2勝、シーズン総合4位
	二階堂 蓮	2023-2024 サマーグランプリで複数回表彰台へ上がった

⑨下川町スポーツ栄誉賞

年度	受賞者名	備 考
平成 5	岡部 孝信	リレハンメル冬季オリンピックスキージャンプ団体銀メダル、ラージヒル第4位
	葛西 紀明	リレハンメル冬季オリンピックスキージャンプ団体銀メダル、ノーマルヒル第5位
平成 18	伊東 大貴	トリノ冬季オリンピックスキージャンプ団体第6位
平成 19	伊藤 謙司郎	'07 ノルデックスキー世界選手権札幌大会ジャンプ代表選手
平成 21	加藤 大平	'09 ノルデックスキー世界選手権大会スキーコンパインド団体金メダル
平成 25	伊東 大貴	'13 ノルデックスキー世界選手権大会ジャンプ混合団体金メダル
	伊藤 有希	'13 ノルデックスキー世界選手権大会ジャンプ混合団体金メダル
令和 2	伊東 大貴	'20 ワールドカップ団体銀メダル
	伊藤 有希	'20 ワールドカップ団体銀メダル
令和 4	佐藤 慧一	'22 ワールドカップ団体銀メダル

⑩下川町スポーツ貢献賞

年度	受賞者名	備 考
平成 7	伊藤 直人	'95 ノルディックスキー世界選手権サンダーベイ大会ジャンプ代表選手
平成 18	伊藤 謙司郎	トリノ冬季オリンピックスキージャンプ最年少代表選手
平成 18	伊藤 有希	'07 コンチネンタルカップレディース 札幌大会スキージャンプ銅メダル

平成 21	伊藤 有希	'09 ノルデックスキー世界選手権大会スキージャンプ競技に冬季種目最年少選手として出場
平成 29	伊藤 将充	'17ジュニア世界選手権アメリカ大会男女混合団体銅メダル
	瀬川 芙美佳	'17ジュニア世界選手権アメリカ大会男女混合団体銅メダル
令和 2	工藤 湊太	'20ユースオリンピック男女混合団体銀メダル
令和 4	津志田 雛	'22ジュニア世界選手権ポーランド大会女子団体銀メダル
	中山 和	'22ジュニア世界選手権ポーランド大会女子団体銀メダル、'22FisCup個人戦銀メダル
令和 5	中山 和	'22ジュニア世界選手権カナダ大会女子団体金メダル、男女混合団体銀メダル
	坂野 旭飛	'22ジュニア世界選手権カナダ大会男女混合団体銀メダル
	杉山 律太	'22ジュニア世界選手権カナダ大会男女混合団体銀メダル
令和 6	岩崎 里胡	'24ジュニア世界選手権スロベニア大会女子団体銀メダル
	長谷川芽依	'24ジュニア世界選手権スロベニア大会女子団体銀メダル

⑪下川町文化奨励賞

年度	受賞者名	備 考
昭和 47	稲村 頌山	邦楽（尺八）
昭和 53	田宮 冠雪	書道
昭和 58	すえひろ会	民謡舞踊
	谷 静子	茶道
	西野 徳義	写真
	文梨 政幸	詩作
昭和 60	林 金雄	短歌
	日野 昭雄	写真
	佐藤 宏彦	美術
昭和 61	佐藤 久子	華道
昭和 62	谷口 富子	短歌
昭和 63	本田 榮太郎	絵画
平成 2	佐藤 きよ子	華道
	中内 伊勢吉	文化財
平成 3	高島 菊次	木彫

平成 6	武藤 美枝	短歌
	林 貞子	婦人団体育成
平成 9	小林 清一郎	詩吟
	前田 一	社交ダンス・邦楽
平成 10	小原 義夫	木工芸
平成 11	古屋 恵美子	郷土芸能
	神田 久	民謡
平成 12	栗原 導子	三味線
	伊藤 ノエ	詩吟
平成 15	川岡 政喜	詩吟
	宮田 由三	カラオケ
平成 16	都 要	カラオケ
平成 17	及川 幸雄	絵画
	押田 キヨミ	短歌
平成 19	尾藤 テル子	民謡・三味線
平成 20	三賀 定喜	民謡・三味線
平成 21	武藤 登	詩吟
	児玉 光	チェンソーアート
平成 22	市村 桂子	絵画
平成 24	倉橋 三千雄	木工芸
	柳澤 美晴	短歌
平成 25	高山 トミ子	短歌
平成 26	金子 淑子	書道
平成 27	西村 道子	絵画
平成 28	千葉 芳男	歌謡
	藤原 重雄	歌謡
平成 30	西野 道子	茶道
令和 1	鈴木 牛後	俳句
	平間 柊	簿記コンクール
令和 2	立花 日菜梨	ピアノ
令和 4	千葉 則男	書道
令和 5	三浦 かな	作文コンテスト
	野原 蒼矢	吹奏楽

⑫下川町スポーツ奨励賞

年度	受賞者名	備考
昭和 45	山川 久四郎	スキー
	西崎 信光	卓球
昭和 47	藤原 喜代蔵	相撲
	三菱金属鉱業 所庭球部	庭球
昭和 57	大西 義信	相撲
	藤木 豊	相撲
	藤原 一行	相撲
	安澤 雄吉	相撲
	田中 良一	相撲
	稲森 芳春	相撲
	荻谷 勝利	登山
	遠藤 幸枝	陸上
	西野 道子	陸上
	伊東 時晴	スキー

昭和 58	西村 儀男	野球
	森 茂	野球
	小南 力蔵	陸上
昭和 59	猪股 俊孝	柔道
	武藤 登	剣道
昭和 60	今 ひろ子	陸上
	伊藤 克彦	スキー
	佐々木 孝元	スキー
	伊藤 直人	スキー
昭和 61	岡部 孝信	スキー
	渡辺 清	野球
	寺澤 義晴	卓球
	山下 邦廣	柔道
昭和 62	小原 強	剣道
	前田 一	野球
	杉之下 悟	柔道
	金澤 博	登山
昭和 63	森 義幸	スノーモービル
	葛西 紀明	スキー
	豊福 九州男	剣道
	佐藤 実	バレーボール
平成元	阿部 正司	スキー
	高原 大	柔道
	吉田 伸男	陸上
	遠藤 和之	少林寺拳法
平成 2	下川ゲート ボール協会	ゲートボール
	養谷 秀之	スキー
	北村 洋司	スキー
	山崎 克也	スキー
	白川 索	スキー
	安澤 豊	スキー
平成 3	小原 幸	陸上
	中西 日出男	地域スポーツ
平成 4	養谷 春之	スキー
	小林 弘見	スキー
	岡部 弘	スキー
平成 5	堺 修一	地域スポーツ
	西島 勲	地域スポーツ
平成 6	養谷 富之	ゲートボール
	伊藤 恒	スキー
平成 6	佐原 裕	スキー
	岡村 知博	スキー
平成 7	布施 昇	スキー
	藤木 聡	庭球
平成 8	遠藤 清	ソフトボール
	養谷 省吾	スキー
	山本 三喜男	ソフトボール
平成 9	佐藤 正義	登山
	高沼 秀雄	柔道
	三島 満江	陸上

平成 10	道原 幸雄	卓球
	山本 博隆	地域スポーツ
	津川 博美	野球
	川島 光義	陸上競技
平成 11	渋谷 敬吉	スキー
	石川 征男	スキー
	西村 道子	スキー
	亀田 正友	パークゴルフ
	日下 伸子	卓球
	道原 伸也	バレーボール
平成 15	山本 弘明	ソフトボール
	加茂 清	登山
	野崎 政一	ソフトボール
	池田 勉	軟式野球
平成 19	福田 勝芳	軟式野球
	加藤 貢	ソフトボール
平成 23	加集 賢一	登山
平成 25	小原 美紀子	剣道
	南澤 茂	柔道
平成 27	加 藤 準	陸上
平成 28	神田 邦枝	パークゴルフ
	杉之下美津子	パークゴルフ
	伊 井 弘	パークゴルフ
平成 29	勢藤 理桜	スキー
	鴨田 鮎華	スキー
	伊藤 浅子	剣道
令和 1	久末 雅輝	フットサル
	松岡 陽奈	剣道
	江口 莉都	剣道
	穴戸 仁美	剣道
	堀川 結衣	剣道
	松岡 杏奈	剣道
	佐藤 希愛	剣道
	木幡 斗吾	柔道
	鴨田 颯人	柔道
	駒津 太珂	トランポリン
令和 2	日下 瑠基	スキー
	中山 和	スキー
	蕨谷 常夫	パークゴルフ
	川崎 忠雄	パークゴルフ
令和 3	弓野 華緒	スキー
	津志田 雛	スキー
	池田 光希	スキー
令和 4	佐藤 虹斗	スキー
	西田 蓮太郎	スキー
	齋藤 優	スキー
	岩崎 里胡	スキー
	杉山 律太	スキー
令和 5	菊池 桜紗	スキー
令和 6	郡司 真那	スキー

